

山陰の
近世・近代
遺跡

山陰の近世・近代遺跡

改訂版

～地方の文化と近代化への軌跡～



宝隆院庭園と仁風閣



やなしお道



鳥取城跡



松江城天守



田儀櫻井家たたら製鉄遺跡・櫻井家本宅跡



池田家墓所(撮影:前田重雄氏)

山陰史跡整備
ネットワーク会議事務局

発行:2017年3月

島根県教育庁文化財課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
TEL.0852-22-5880 FAX.0852-22-5794
鳥取県教育委員会事務局文化財課 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目271番地
TEL.0857-26-7932 FAX.0857-26-8128

山陰史跡整備ネットワーク会議

山陰の近世・近代遺跡

～地方の文化と、近代化への軌跡～

はじめに

関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、征夷大將軍に任命され江戸幕府を開きました。江戸幕府は全国に幕府の直轄地天領と大名の支配する「藩」を置き、支配機構の整備、対外交渉の制限、身分秩序の統制などを行いました。こうして將軍(幕府)と大名(藩)による幕藩体制という支配体制が確立していききました。支配の安定は社会の発展をもたらし、各藩においても独自の社会、経済、文化の発展がみられました。

近世後期になると財政難や飢饉などの影響で幕藩体制は動揺し、欧米のアジア進出をきっかけとして幕末の動乱の時代を迎えました。その後、江戸幕府は終わりを迎え、新政府が樹立されました。新政府は近代国家の成立を目指し、社会、経済、文化などさまざまな分野で近代化を推し進めていきました。

このガイドブックでは、近世の面影がしのばれる遺跡、幕末の動乱を表す遺跡、近代化への躍動を感じさせる遺跡を紹介しています。これらの遺跡を巡り、山陰の近世や近代の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

西暦年	元号	出来事
1600	慶長5年	関ヶ原の戦いで徳川氏が勝利し、全国の大名の領地替えが行われる。津和野藩、松江藩、鳥取藩、鹿野藩、石見銀山領(天領)が成立する。
1601	慶長6年	若桜藩が成立する。
1603	慶長8年	徳川家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開く。
1615	元和元年	大坂夏の陣により豊臣氏が滅亡する。一国一城令、武家諸法度が出される。
1617	元和3年	鹿野藩、若桜藩が鳥取藩に併合される。鹿野藩主亀井氏は津和野藩に転封。
1619	元和5年	浜田藩が成立する。
1635	寛永12年	日本人の海外渡航と帰国を禁止する。
1639	寛永16年	ポルトガル人の来航を禁止する。
1641	寛永18年	平戸のオランダ商館を長崎の出島へ移す。
1716	享保元年	徳川吉宗による享保の改革がはじまる。(享保の改革:1716~1743)
1767	明和4年	田沼意次が側用人となる。(田沼時代:1767~1786)
1787	天明7年	老中松平定信による寛政の改革がはじまる。(寛政の改革:1787~1793)
1841	天保13年	老中水野忠邦による天保の改革がはじまる。(天保の改革:1841~1843)
1853	嘉永6年	ペリーが浦賀へ来航する。
1866	慶応2年	幕長戦争がおこり、幕府が敗れる。
1867	慶応3年	徳川慶喜が朝廷へ大政奉還を行い、朝廷は王政復古の号令を発する。
1868	明治元年	隠岐騒動がおこる。
1871	明治4年	鳥根県(出雲国)、浜田県(石見国)、鳥取県(伯耆国・因幡国・隠岐国)が設置される。
1876	明治9年	鳥取県が高根県に合併される。
1881	明治14年	鳥取県(伯耆国・因幡国)が再設置される。



津和野城跡

02	石見国の近世・近代遺跡
10	出雲国の近世・近代遺跡
14	隠岐国の近世・近代遺跡
16	近世の街道
18	近世の製鉄遺跡
24	伯耆国の近世・近代遺跡
34	因幡国の近世・近代遺跡
44	近世・近代遺跡用語解説
45	図・写真を引用した主な文献等

1 近世社会の発展

近世の山陰地方(鳥根県・石見国・出雲国・隠岐国、鳥取県・伯耆国・因幡国)には津和野藩、浜田藩、松江藩、鳥取藩の諸藩や、石見銀山を中心とした幕府領が置かれました。諸大名や幕府は拠点となる城や陣屋を整備し、そのまわりには城下町が形成されていきました。城下町は政治や経済の中心地となり大きく発展していきました。また、京都・大坂や城下町を結ぶ街道や海運の整備にともない、交通や流通も活発化し経済の発展を促しました。そして、こうした都市部の経済発展は、地方での新田開発や諸産業の発展をもたらしました。代表的な産業としては石見銀山に代表される鉱山業や特産品の鉄を生産したたたら製鉄業があげられます。この他、「石州半紙」を生産した製紙業、茶器や生活陶器を生産した窯業も大きく発展しました。

社会の発展は経済の面だけでなく、文化や学問の面にもみられました。近世中期は経済と文化の先進地であった京都・大坂を中心に元禄文化が開き、近世後期には江戸を中心とした化政文化が展開しました。特に化政文化は出版や教育の普及、商人や文化人の交流などを通じて地方へも広がっていきました。学問の面では、各藩が設立した「藩校」で藩士の人材育成が行われ、「私塾」や「寺子屋」といった民間の教育施設で庶民やその子どもたちの教育が行われました。こうした学問の発展は、幕藩体制の動揺のもとで様々な政治思想をうみだし、幕末の尊王攘夷論にも大きな影響を与えました。

山陰地方には、近世社会の発展の様子や当時の人びとの息吹を感じることのできる城や城下町、街道や産業、文化や宗教に関する遺跡や建造物が数多く残されています。

2 幕末動乱から近代へ

アメリカのペリーの来航をきっかけとして日本は開国することとなりました。開国は、日本の社会や経済、政治情勢に大きな影響をおよぼしました。対外貿易は品不足と金の流出を招き、物価高騰による経済混乱を招き引き起こしました。また大老の暗殺などにより幕府の権威は急速におとろえ、尊王攘夷運動や討幕運動が展開することとなりました。こうした情勢のもと幕府は大政奉還により政権返上を行いました。薩摩藩・長州藩を中心とする討幕派は王政復古の号令を発し新政府の樹立を宣言し、ここに265年続いた江戸幕府は終わりを迎えました。幕末の山陰地方は「幕長戦争」の戦場となりました。各藩や幕府領ではそれぞれの立場から異なった対応をとり、明治を迎えることとなりました。

明治政府が近代国家を樹立するにいたった政治的・経済的・社会的変動の過程を明治維新といいます。その過程において中央集権体制をつくるために「藩」を廃止し、全国に府県が置かれました。府県には中央から役人が派遣され、中央の指令が地方に徹底するようになりました。社会制度も近代化され、身分制度が廃止されて四民平等の社会となりました。経済面においては、財源の確保のために土地制度と税制改革である地租改正を実施し、近代産業の育成を目指した殖産興業につとめました。こうした近代化の動きは、西洋文化の受容をともない、政治や産業のみでなく、人びとの衣食住など様々な分野に影響を与えました。

山陰地方に残された近代遺跡や近代化遺産としての建造物などにもその影響をみるることができます。

石見国の近世・近代遺跡

近世の石見国は、西から津和野藩領、浜田藩領、石見銀山領の3つの地域に分かれていました。津和野藩領では、和紙の原料である楮(こうぞ)の栽培が奨励され「石州半紙」の名で有名な和紙の生産が盛んに行われました。浜田藩領では、津和野藩と同様に「石州半紙」の生産が行われたほか、漁業、製鉄業、窯業が盛んに行われました。石見銀山領では、幕府から派遣された銀山奉行や大森代官が、石見銀山や石見国に点在する鉱山と、その周辺の地域を治めていました。領内の各村は石見銀山に資材や労務を供出して銀山経営を支えました。また石見国の沿岸部に点在する浜田、江津、温泉津などの港は、西廻り航路での交易によって栄えました。政治に関わる遺跡には、津和野城跡、浜田城跡、大森代官所跡などがあります。生産に関わる遺跡には、世界遺産として有名な石見銀山遺跡などの鉱山遺跡、近世の鉄生産を担った「たたら製鉄」の遺跡、唐人焼窯跡(吉賀町)などの窯跡があります。近代では、幕末に多くの偉人を輩出した藩校養老館、養老館初代国学教授の岡熊臣の旧宅、文豪の森鷗外の旧宅、啓蒙家の西周の旧居があります。



久喜・大林銀山遺跡 邑南町
(くき・おおばやしぎんざんいせき)

16世紀中頃～17世紀頃及び20世紀初頭に銀や鉛を産出。出羽の久喜・大林・岩原一帯のおよそ500haの範囲で1500箇所以上の採掘跡や、製錬遺跡などを確認しています。



都茂鉱山(つもこうざん) 益田市

近世の大鉱山または石見銀山領を経て、戦後は中外鉱業により銅、亜鉛、タンクステン、金銀等が昭和61年(1986)まで採掘されました。



谷戸経塚(たにどきょうづか) 川本町

文政2年(1819)に建立されたものです。石碑の下には法華経が一字ずつ書かれた小石が入った壺が2つありました。江川の洪水に苦しめられた人たちの治水の願いがうかがえます。



図指定史跡

つわのじょうあと 日本遺産
津和野城跡

【中世の縄張りを生かしつつ築かれた総石垣の要塞】 津和野町

【所在地】津和野町後田1477番20外 【アクセス】「津和野高校前」バス停から徒歩5分でリフト乗り場/六日市ICから車で1時間

永仁3年(1295)ごろ、能登国より入部した吉見頼行が築きはじめたと伝えられています。曲輪と堀切のある典型的な山城でしたが、慶長6年(1601)、関ヶ原の戦いの行賞で入城した坂崎直盛が、城下を見下ろす山頂を削平して総石垣の山城へと大改築しました。坂崎氏断絶後に入った亀井氏が今に残る城跡と町並みを整備しました。現在城跡には山城の石垣としては屈指とされる壮大な石垣が残り、山麓の藩邸跡に櫓2基が現存しています。



津和野城跡

図指定史跡

もりおうがいきゅうたく
森鷗外旧宅

【明治の文豪の生家】 津和野町

【所在地】津和野町町田イ230番ほか 【アクセス】「森鷗外旧居前」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間

森鷗外(1862～1922)は近代を代表する文筆家の1人で、津和野町町田に生まれ、「余ハ石見人森村太郎シテ死セント欲ス」という遺言を残して永眠しました。この生家は上京後移築されていましたが、33回忌のおり、元の地に移築されました。木造平家建茅葺(現在は瓦葺に改装)の建物で、4畳半の茶室は父が鷗外の勉強部屋として与えたものといわれています。



森鷗外

森鷗外旧宅

図指定史跡

にしあまねきゆうきよ
西周旧居

【明治の啓蒙思想家の旧居】 津和野町

【所在地】津和野町後田13番2 【アクセス】「西周旧居前」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間

西周(1829～1897)は、近代の啓蒙家で、津和野町森村(現津和野小学校敷地内)で生まれました。オランダへ留学し、帰国後に「万国公法」を翻訳出版、「明六社」を福沢諭吉らと結成し、日本人の精神の近代化を説きました。現在、木造茅葺の母屋、勉強部屋に使った土蔵、土塀を見ることができます。



西周

西周旧居



県指定史跡

つわのほんこうようろうかん **津和野藩校養老館** [西周や森鷗外を生んだ藩校]

日本遺産

津和野町

【所在地】津和野町後田066番甲 【アクセス】「殿町」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間

藩校養老館は島井氏8代藩主矩賢(のりかた)が天明6年(1786)大坂から山口剛斎を迎え開設しました。嘉永2年(1849)に11代藩主茲監(これみ)が新たに国学や蘭医学科を設けました。この時、阿熊臣が制定した学則は皇国史観に立つ人間修養を説いたもので、津和野藩学よりどころとなりました。藩校からは西周や森鷗外、小藤文次郎などの偉人が輩出されました。現在、槍術教場・剣術教場や御書物蔵などが残っています。



町指定史跡

おかくま おみきゆうたく **岡熊臣旧宅** [養老館学則を制定した国学者]

津和野町

【所在地】津和野町山下327 【アクセス】六日市ICから車で1時間10分

岡熊臣(1783~1851)は、富長山八幡宮の神官の長男として生まれました。村田春門について国学を学び、日本書紀の研究を行い「日本書紀私伝」をまとめました。文化12年(1816)私塾「桜蔭館」を開設し、嘉永2年(1849)藩校養老館の初代国学教授として迎えられました。学則を制定し、津和野藩学の礎を築きました。この旧宅に私塾「桜蔭館」は開設されました。木造茅葺の建物で、式台を設けています。



町指定史跡

とうじんやきかまあと **唐人焼窯跡** [近世初期の陶器の窯跡]

吉賀町

【所在地】吉賀町柿木村福川 【アクセス】六日市ICから車で40分

文禄・慶長の役で捕えられた「李郎子」という陶工が、柿木村福川の杉ヶ峠の近くで、陶器を製造したと伝えられています。昭和56年度(1981)に発掘調査が行われ、連房式の登り窯が発見されました。窯の周辺のものほら(ゴミ捨て場)からは、素焼きの破片や、陶器の一部が発見されました。薬灰釉薬をつかった日常の陶器が主に焼かれ、一部茶の湯道具なども焼かれていたようです。窯跡より約300m下ったところに李郎子の墓があります。



市指定史跡

きししす え はか おおぎはらかんもんあと **岸静江の墓及び扇原関門跡** [近代日本の夜明けの地]

益田市

【所在地】益田市多田町390-4(岸静江の墓)、394-1(扇原関門跡) 【アクセス】「多田温泉入口」バス停から徒歩10分/益田駅から車で7分

岸静江は、幕長戦争に備えて関門の防備にあたった浜田藩士で、慶応2年(1866)6月16日正午頃、村田蔵六(大村益次郎)率いる長州軍1500名に対し、わずかな兵と共に闘い、壮絶な戦死を遂げました。岸の最期に感嘆した長州軍から費用が出され、多田地区民により手厚く葬られたのが「濱田藩岸静江墓」です。扇原は津和野藩と浜田藩の藩境にあたる当時の山陰道の要衝で、現在も境界を示す石標柱や番所の跡と思われる石垣が残っています。長州軍はこの石州口の戦いに勝利し、時代は一気に明治維新へと進みました。



国重要文化財

きゆうどうめん けじゆうたく **旧道面家住宅** [貴重な一般農家の住宅]

吉賀町

【所在地】吉賀町注連川764番地 【アクセス】六日市ICから車で10分

石見地方の一般農家の特徴を残した建物です。建築年代は不明ですが、様式手法から考えると18世紀後半を下らないものと考えられます。茅葺で桁行四間(7.88m)、梁行三間(6m)、入母屋造りの比較的小規模な住宅です。「おもて」と呼ばれる主室の正面は片壁付きの引戸になり古い形式を残しています。近世民家の数少ない石見地方にあって、豪農ではない庶民の住居が現存しており、大変貴重な文化財といえます。



県指定史跡

はまだじょうあと **浜田城跡** [一国一城令後の近世城郭]

浜田市

【所在地】浜田市殿町123番地10外 【アクセス】「殿町」バス停から徒歩で約5分/道の駅「ゆらひパーク浜田」から車で約10分

浜田城は、古田重治によって元和6年(1620)から約3年の歳月をかけて築城されたと伝わっています。浜田城下には、「浜田八町」と呼ばれる町人町が広がり、周囲には浜田浦と松原浦の直浦や外浦、瀬戸ヶ島といった澳がありました。慶応2年(1866)幕長戦争の時、戦況の悪化のため、浜田藩が自焼退城したことで、その役割を終えました。



国重要文化財
県指定史跡

いわみぎんざんいせき
石見銀山遺跡 [世界に誇る鉱山遺跡]

世界遺産

大田市

【所在地】大田市大森町・仁摩町・温泉津町
【アクセス】大森町:出雲ICから車で1時間/鞆ヶ浦:出雲ICから車で1時間/沖泊:出雲ICから車で1時間15分

石見銀山遺跡は、大永6年(1526)に博多の豪商神屋寿禎(かみやじゅてい)によって発見されて以来、大正12年(1923)の休山まで約400年にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡です。16世紀半ばから17世紀前半の全盛期には、世界の産銀量の約3分の1を占めた日本銀のかなりの部分が石見銀山で産出されたものであったと考えられています。平成19年(2007)7月には「石見銀山遺跡とその文化的景観」として、国内では14件目、鉱山遺跡としてはアジアで初めての世界遺産に登録されました。



① 銀山棚内(ぎんざんさくのうち)

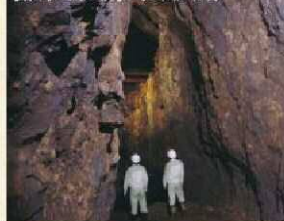
16世紀前半から本格的に開発され、20世紀前半まで操業された銀鉱山遺跡の本体です。江戸時代初め、柵で厳重に囲まれていたことからこの名があります。銀の生産活動はもちろん、生活・流通・信仰・支配に関わる遺構・遺物が良好に残っています。

大久保間歩

おおくぼまぶ

石見銀山の中で最大級の間歩(坑道)です。江戸時代の手掘りのノミ跡や明治時代に発破などで拡張した跡がみられます。

【有料公開施設】※要事前予約



龍源寺間歩

りゅうげんじまぶ

江戸時代中期、代官所直営の間歩「御直山(おじきやま)」として操業されました。壁面に残るノミの跡が当時の様子を物語っています。

【有料公開施設】



清水谷製錬所跡

しみずだにせいれんじょあと

明治28年(1895)、藤田組によって建設された大型の製錬所跡です。周囲には鉱夫住宅・変電所・選鉱場・トロッコ道などの跡が残ります。



② 代官所跡

17世紀に銀山棚内から大森地区に移転した石見銀山支配の中核施設跡です。文化12年(1815)に再建された表門・門長屋が残っています。



⑦ 宮ノ前地区(みやのまえちく)

発掘調査により、16世紀末～17世紀初頭頃の道路跡や建物跡が発見されました。24基もの炉跡が集中した工房跡も見つかっています。



③ 矢滝城跡(やたきじょうあと) ④ 矢筈城跡(やはすじょうあと) ⑤ 石見城跡(いわみじょうあと)

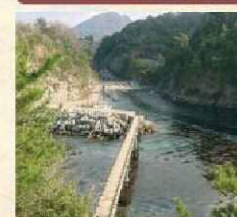
石見銀山を防衛するために築かれた山城の遺構です。矢滝城跡と矢筈城跡は石見銀山街道温泉津沖泊道を挟んで対峙する位置にあり、石見城跡は仁摩方面に出る街道沿いに存在します。それぞれ中世山城の立地・形態をよく留めています。



⑨ 羅漢寺五百羅漢(らかんじごひゃくらかん)

岩盤斜面に3箇所石窟があり、中央窟に石造釈迦三尊仏を、左右両窟には250体ずつの石造羅漢坐像を安置しています。18世紀中頃の制作で、3基の石橋や1基の祈念塔を含め、石見銀山の石工技術をよく表した貴重な石造作品です。

⑫ 鞆ヶ浦(ともがうら)



16世紀前半から中頃にかけて銀・銀鉱石を博多に積み出した港です。船の係留用に岩盤をくり抜いた鼻ぐり岩などが残ります。繁栄した頃の土地利用を引き継ぐ集落景観も貴重です。

港と港町

⑬ 沖泊(おきどまり)



主に16世紀後半の約40年間、銀の輸送や石見銀山への物資補給などの目的で機能した港です。2つの城跡や鼻ぐり岩などが残ります。集落は往時の土地利用を今に引き継いでいます。

石見銀山街道 ⑩ 鞆ヶ浦道 ⑪ 温泉津沖泊道 石見銀山街道については16ページで紹介しています。

史跡を除く石見銀山関連文化財 ⑥ 大森銀山重要伝統的建造物群保存地区

銀山に隣接して発展した、江戸時代幕府直轄地の石見銀山附御料150余村の中心町です。武家・商家の旧宅や、社寺などが混在してよく残っています。昭和62年(1987)に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

⑧ 重要文化財 熊谷家(くまがいけ)住宅

大森地区における最大規模の商家建築です。有力商人の地位や生活の変遷を最もよく示しています。熊谷家の暮らしを中心とした展示があり、一般公開されています。

⑭ 温泉津重要伝統的建造物群保存地区

石見銀山の外港として発展した温泉のある港町。江戸時代以来の町割りをよく残し、町屋、廻船問屋、温泉旅館、社寺等の伝統的建造物がよく残っています。平成16年(2004)、温泉町としては日本ではじめて、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

町指定史跡

くき とこやせいれん いせき
久喜 床屋製錬遺跡 [近世の久喜・大林銀山を語る] 邑南町

【所在地】邑南町久喜932番地内 【アクセス】大朝ICから車で約40分

17世紀後半の含銀鉛の製錬遺構跡です。100基以上の焼竈跡や吹床跡が確認され、この一帯で採掘から製錬まで一貫した作業が行われていたことがわかりました。



町指定史跡

くき せいれんしよ いせきぐん
久喜製錬所遺跡群 邑南町

【重要な近代鉱業遺産】

【所在地】邑南町久喜1713番地外 【アクセス】大朝ICから車で約45分

中国地方の鉱山王と称された津和野の堀家が20世紀初頭に操業した含銀鉛の製錬所跡。明治38・39年には全国9位の産銀量を誇りました。西洋式製錬所に移行していく時代にあって、在来の技術の延長線上にある製錬所跡としても希少かつ貴重です。 ※上記地図を参照。



津和野町郷土館

大正10年設立の山陰地方で最も古い郷土資料館です。藩政資料等が展示されています。平成19年に登録有形文化財に登録されました。

【所在地】津和野町森村口127 【電話】0856-72-0300

【休館日】毎週火曜日、12/30～1/4

【開館時間】8:30～17:00

【入館料】一般400円、中・高生300円、小学生以下150円

【駐車場】有り(3台)

【アクセス】JR津和野駅から徒歩で10分/六日市ICから車で1時間



森鷗外記念館

史跡森鷗外旧宅に隣接しています。鷗外の著作や遺品等が展示されています。

【所在地】津和野町町田イ238 【電話】0856-72-3210

【休館日】毎週月曜日、12/29～12/31

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】一般600円、中高生400円、小学生250円

【駐車場】有り(30台)

【アクセス】「森鷗外旧居前」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間



津和野町日原歴史民俗資料館

農機具や漁業の道具、食器、玩具、衣類などの生活用品が展示されています。

【所在地】津和野町枕瀬218-1 【電話】0856-74-0933

【開館日】4月～11月の土日、祝日のみ開館

【開館時間】8:30～17:00

【入館料】一般200円、中・高生100円、児童50円

【アクセス】JR日原駅から徒歩で15分/六日市ICから車で50分

【駐車場】有り(40台)



益田市立歴史民俗資料館

大正10年建築の美濃郡役所を改装して、中世益田氏関連遺跡の遺物や民俗資料などが展示されています。

【所在地】益田市本町6番8号 【電話】0856-23-2635

【休館日】火・水曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】一般200円 高校生以下無料

【駐車場】有り(10台)

【アクセス】「折戸」バス停から徒歩すぐ/JR益田駅から車で10分



石見銀山資料館

江戸幕府が支配拠点施設とした代官所跡の敷地に建つ資料館です。石見銀山で使用された採掘工具や古文書、鉱石、絵巻などが展示されており、当時の石見銀山の様子を学ぶことができます。

【所在地】大田市大森町ハ51番地1 【電話】0854-89-0846

【休館日】年末年始、特別展前後 【開館時間】9:00～17:00

【入館料】一般500円、小人200円 【駐車場】なし

【アクセス】「大森代官所跡」バス停から徒歩すぐ/出雲ICから1時間、三次ICから1時間30分



石見銀山世界遺産センター

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値や魅力、全体像をわかりやすく紹介する銀山の拠点施設です。町並みや遺跡等の現地を訪れる前の事前学習に最適です。

【所在地】大田市大森町イ1597番地3 【電話】0854-89-0183

【休館日】毎月最終の火曜日、年末年始 【開館時間】8:30～17:30

【入館料】一般300円、小中学生150円 【駐車場】有り(400台)

【アクセス】「世界遺産センター」バス停から徒歩すぐ/出雲ICから1時間、三次ICから1時間30分



浜田市浜田郷土資料館

浜田の歴史や人々の生活などに関する資料を展示しています。

【所在地】浜田市黒川町3746番地3 【電話】0855-23-6453

【休館日】月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】無料 【駐車場】有り(2台)

【アクセス】JR浜田駅より徒歩で約10分

道の駅「ゆうひパーク浜田」から車で約10分



江津市郷土資料館

江津市の民俗資料などを展示しています。

【所在地】江津市江津町995 【電話】0855-52-2501

【休館日】土・日・祝日、年末年始

【開館時間】9:30～17:00(要事前連絡)

【入館料】無料

【駐車場】あり(10台)

【アクセス】JR江津駅から徒歩で10分/江津ICから車で3分



出雲国の近世・近代遺跡

近世の出雲国は、松江城を藩庁とする松江藩として(慶長16年(1611)までは月山富田城が藩庁でした)、当初は堀尾氏、次いで京極氏、寛永15年(1638)からは松平氏が治めました。支藩には、広瀬藩、母里藩、一時的に松江新田藩がありました。松江藩では木綿と製鉄が大きな産業として発達しました。木綿の生産は斐伊川下流域で盛んに行われ、製鉄は山間部を中心に行われました。また、榎(はぜ)や高麗人参の栽培も奨励され産業として発展しました。文化的には江戸時代の代表的茶人の一人である第七代藩主治郷(不昧)の治世で、茶道、陶工、木工、漆工など工芸美術が大いに発達しました。

政治に関わる遺跡には、松江城や歴代藩主の墓所、沿岸防備のため築かれた台場の跡などがあります。生産に関わる遺跡には、「たたら」製鉄の遺跡や、雲州久邑長沢焼などの窯跡があります。近代では、明治時代の擬洋風建築として注目されている興雲閣や、文筆家の小泉八雲の旧居があります。

県指定史跡

うんしゅうく むらながさわやかまあと 雲州久邑長沢焼窯跡

出雲市

【所在地】出雲市多伎町久村2011-5 いずも大社カントリークラブ敷地内

文政10年(1827)頃開窯され、有田の焼き物職人木村甚兵衛の指導で磁器染付の生産を始め、後に初めての松江藩直営の窯となり、品質の良い製品を生産しました。しかし10年も経たないで意東焼に移り、その役目を終えました。



国指定史跡

まつ えじょう 松江城 [天守が残る山陰唯一の城]

国宝

松江市

【所在地】松江市殿町1-10
【アクセス】「松江城(大手前)」バス停から徒歩1分/JR松江駅から車で10分

宍道湖が眺望できる亀田山に築かれた平山城で、堀尾吉晴により、慶長12年(1607)から5年の歳月をかけて築城されました。山陰地方で唯一現存する天守(国宝)や、石垣、堀など、城全体が往時の姿をよくとどめています。また、天守は、別名「千鳥城」とも呼ばれ、実戦向けに造られたその構造は、桃山時代の特徴をよく残しています。(第1巻「山陰の城館跡」)参照



松江城

国指定史跡

まつ えはんしゅまつだいらけ ぼ しょ 松江藩主松平家墓所 [松江歴代藩主が眠る場所]

松江市

【所在地】松江市外中原町179-1 【アクセス】「月照寺前」バス停から徒歩すぐ/JR松江駅から車で10分

松江藩主松平家初代直政から9代齊貴までの廟のほか、初代直政の生母月照院の墓塔、子息・子女を葬る合葬墓などが築かれています。このほかにも境内には、小泉八雲の随筆に出て来る「月照寺の大亀」や、松江藩のお抱え力士で史上最強の大関と謳われた「雷電」の碑などがあります。



第七代廟所



月照寺の大亀



市指定史跡

こいすみや くもきゆうきよ
小泉八雲旧居 [八雲がセツと暮らした家]

松江市

【所在地】松江市北堀町315 【アクセス】「小泉八雲記念館前」バス停から徒歩すぐ/JR松江駅から車で10分

江戸時代中頃に建てられたと推定される旧士族の屋敷で、英語教師として松江にやって来た小泉八雲(ラファディオ・ハーン)が、明治24年(1891)6月~同年11月までの約半年間を過ごした邸宅です。屋敷の居間からは三方に日本庭園を眺めることができ、八雲は「ある日本人の庭にて」でこの庭のことを紹介しています。小泉セツと結婚した後、小泉八雲として名乗ることとなりました。



県有形文化財

こうらんかく
興雲閣 [城内にたたずむ明治時代の迎賓館]

松江市

【所在地】松江市殿町1-59(松江城山公園内) 【アクセス】「松江城(大手前)」バス停から徒歩5分/JR松江駅から車で10分

明治36年(1903)松江市が工芸品陳列所として建てた建物です。装飾・彫刻を多く用いた華麗な仕上げで、明治40年(1907)には皇太子嘉仁親王(のちの大正天皇)のご宿泊所になりました。平成25~27年(2013~2015)に保存修理工事を行い、松江城内に建つ迎賓館として甦りました。

【入館料】無料 【2階大広間】貸切使用可能(有料) 【電話】0852-61-2100
【休館日】年中無休 【開館時間】4月~9月:8:30~18:30/10月~3月:8:30~17:00



市指定史跡

まつえはんしゅほりおただはるぼしよ
松江藩主堀尾忠晴墓所 [松江城初代城主にして堀尾家最後の藩主の墓]

松江市

【所在地】松江市栄町792 【アクセス】「幸町」バス停から徒歩3分/JR松江駅から車で15分

松江藩3代目藩主、堀尾忠晴の墓所です。寛永10年(1633)に忠晴が亡くなった際、忠晴には跡継ぎがなく堀尾家は改易されました。この忠晴墓所は、堀尾氏に代わり入国した京極忠高のほからいで築かれたものです。この墓所がある圓成寺も、忠高が国屋町にあった瑞応寺をこの地に移し、堀尾忠晴の法号にちなんで圓成寺としたものです。



あみや はまだいばあと・かわしもだいばあと
網屋浜台場跡・河下台場跡 [保存状態が良好な松江藩の台場]

出雲市

【所在地】出雲市十六島町、河下町 【アクセス】一畑電鉄雲州平田駅から車で約25分

江戸時代後期から幕末にかけて、幕府の命令で各藩に沿岸防備を目的とし、台場が築造されました。松江藩には約30ヶ所の台場があったとされていますが、現存する台場は十六島湾にある網屋浜台場跡(出雲市十六島町)、河下台場跡(出雲市河下町)のほか、ごくわずかとなりました。網屋浜台場跡は、寛政11年(1799)に築造されたと伝えられており、切り石を積み築造されています。河下台場跡は、文久3年(1863)に石理と土塁で築かれた東西二つの台場からなり、両台場とも非常に残りが良く、当時のようすを伝える重要な遺跡です。



小泉八雲記念館

小泉八雲(ラファディオ・ハーン)の自筆原稿や、愛用していた机などの資料を展示・公開する世界で唯一の単独施設です。



【所在地】松江市奥谷町322 【電話】0852-21-2147
【休館日】年中無休
【開館時間】(4月~9月)8:30~18:30/(10月~3月)8:30~17:00
※入館受付は閉館20分前
【入館料】一般300円、小・中学生150円 【駐車場】なし
【アクセス】「小泉八雲記念館前」バス停から徒歩すぐ/JR松江駅から車で10分

来待ストーンミュージアム

古来より利用されてきた「来待石」を中心に、石にまつわる歴史・文化を紹介しています。体験施設やレストランもあります。



【所在地】松江市宍道町東来待1574-1
【電話】0852-66-9050
【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】一般300円、小・中学生150円 【駐車場】有り(80台)
【アクセス】JR来待駅から徒歩10分/JR来待駅から車で3分

八雲郷土文化保存伝習施設

産業・風俗・諸行事など、郷土の文化を保存・伝習していくための施設です。昔懐かしい民具も展示しています。



【所在地】松江市八雲町熊野799 【電話】0852-54-1027
【休館日】水曜日、祝日の翌日、年末年始
【開館時間】9:00~17:00(土曜:9:00~12:00)
【入館料】一般108円、小・中学生52円 【駐車場】有り
【アクセス】「熊野大社前」バス停から徒歩すぐ/JR松江駅から車で約30分

松江歴史館

松江藩の家老屋敷跡に建つ国宝収蔵博物館です。城下町松江の成り立ちや藩の産業、人々の暮らしなどを映像や模型、資料展示で紹介しています。



【所在地】松江市殿町279 【電話】0852-32-1607
【休館日】毎月第3木曜日
【開館時間】4~9月:8:30~18:30、10~3月:8:30~17:00
【入館料】無料、展示観覧は有料(基本展示:大人510円、小・中学生250円)
【駐車場】身障者用のみ
【アクセス】「大手前堀川遊覧船乗場・歴史館前」バス停から徒歩3分

横田郷土資料館

大正末期の農家のたたずまいで当時の生活様式を再現した建物には明治大正時代の農具や民具等の展示をしています。



【所在地】奥出雲町下横田474番地 【電話】0854-52-2680
【休館日】月曜日、祝日の翌日、冬季休館(TELにて確認ください)
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】無料 【駐車場】有り(20台)
【アクセス】「八川公民館前」バス停から徒歩で1分・三刀屋木次ICから車で40分・JR出雲横田駅から車で10分



松江城と城下町の散策コース

- 松江歴史館
徒歩で10分
- 興雲閣
徒歩で3分
- 松江城天守閣
徒歩で20分
(稲荷橋経由)
- 小泉八雲旧居

隠岐国の近世・近代遺跡

近世の隠岐は、当初は堀尾氏、次いで京極氏が国主として治め、寛永15年(1638)からは松平氏が幕府からの預地として治めました。耕作地の狭い隠岐では、それを補うため4枚の畑で放牧と稗・大豆・小豆・麦の輪作を行う「牧畑」と呼ばれる独特の農法が行われました。しかし天領でありながら松江藩の預地であることから、飢饉の際には適切な対策がとられず、多くの犠牲者が出ました。一方で港は、北前船の絶好の風待港として賑わい、島前の焼火神社は海上安全の守護神として尊崇されました。

近世から近代に向う明治元年(1868)に有名な「隠岐騒動」がありました。これは隠岐の神官と庄屋達が松江藩の郡代を追放し、自治機関を設立した出来事です。松江藩は隠岐に出兵して奪回しますが、鳥取藩、薩摩藩、長州藩が仲介して松江藩兵は撤退し、自治機関は復活し、明治2年(1869)まで存続しました。

近世・近代の文化財には、郡役所や民家などの建造物があります。



赤はげ山の名垣 **知夫村**
(あかはげやまのみがき)

牧畑の境界として垣を作るのに石が使用されています。地主が小作人を夫役して築造させたもので、小作人の苦勞を示すと共に牧畑の境界の古態として貴重な遺跡です。高さは1.5~2m、幅1.5m、長さは1kmにも及びます。



焼火神社社務所石垣 **西ノ島町**
(たぐひじんじやむしょいしがき)

隠岐島で、時代的に古く、かつ最大規模の石垣です。現在でも構築が困難な場所に完成させた焼火信仰の盛んさを証するもので、驚くばかりです。



村上助九郎邸 **海士町**
(むらかみすけくろうてい)

村 upper 家は、承久の乱(1221年)により配流となった後鳥羽上皇に忠誠を尽くし、上皇が崩御されてからも累代忠勤として御次藤塚守部を務めている家です。

重要文化財

ささきけしゅうたく 佐々木家住宅 [島後地区を代表する庄屋建築]

隠岐の島町

【所在地】隠岐の島町荻カス谷17番 【アクセス】「荻入口」バス停から徒歩で5分/隠岐汽船西郷港から車で15分

天保7年(1836)の建築で、隠岐地方の民家としては規模が大きく、杉皮屋根を残しています。造りは隠岐造と呼ばれるもので、江戸期の姿をよく残しています。

【電話】08512-2-1290
【休館日】12月~2月
【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有り
【入館料】大人400円/中学生以下200円



県有形文化財

きゆうす きほかさんぐんやくしよちようしゃ(おききょうどかん) 旧周吉外三郡役所庁舎(隠岐郷土館)

隠岐の島町

【所在地】隠岐の島町郡749-4 【アクセス】「水若前神社前」バス停から徒歩5分、隠岐汽船西郷港から車で20分

旧周吉外三郡役所庁舎は、明治18年(1885)に隠岐四郡の役所庁舎として建設されました。島根県下で唯一の明治初期の疑洋風木造建築であり、全国的にも希有のものとして、県の有形文化財に指定されています。

【電話】08512-5-2151
【FAX】08512-5-2191
【休館日】年末年始と12月~2月の土・日・祝日
【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有り(10台)
【入館料】一般300円、高・大学生200円
小・中学生100円



県有形民俗文化財

つばめみんか 都万目の民家 [大型農家建築]

隠岐の島町

【所在地】隠岐の島町郡 【アクセス】「水若前神社前」バス停から徒歩5分、隠岐汽船西郷港から車で20分

元々は都万目地区にあったものを、郡地区に移築したもので、島後地区の大型農家に見られる間取りをもつ典型的な民家です。建築年代は明確ではありませんが、幕末ごろと考えられています。



近世・近代の建築を訪ねるコース

旧周吉外三郡役所庁舎(隠岐郷土館)

徒歩で1分

都万目の民家

車で30分

佐々木家住宅

近世の街道

一般的に「街道」と呼ばれる近世の道路は、中世の道路と比べて格段に整備された道でした。街道整備の要因として、まず「参勤交代」が挙げられます。大名が定期的に江戸に出仕するこの制度により、往復のための街道が整備され、宿駅などの施設が設けられました。更に、経済の発達により、民衆の往来も盛んとなり、街道や宿場などの発展が促されました。

国指定史跡

さんいんどう (のさかとうげごえ・とくじょうとうげごえ) 山陰道(野坂峠越・徳城峠越)

日本遺産

山陰を貫く幹線道路 津和野町

【所在地】津和野町 【アクセス】野坂峠越道の駅津和野温泉なごみから徒歩で30分 徳城峠越「小瀬」バス停から徒歩で30分/六日市ICから車で1時間

山陰道は、京都を発し、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見を貫き、長門まで通じていた街道です。津和野町内では、青原から小瀬・徳城峠・柳・商人・寺田・後田・中座を通過して野坂の峠に向かい長州藩との国境に至ります。国の史跡に指定された場所は、徳城峠と野坂峠の2ヶ所であり、徳城峠は全長約3.2km、幅約3~4mで、峠には茶屋跡があったと伝えられています。野坂峠は全長約1.5km、幅約3~4mで、石敷きや番所跡などが確認されています。これらの峠は、いずれも江戸時代の街道の姿として良好に残っており、幕末の様子を描いた津和野百景図にも二つの峠が紹介されています。



国指定史跡

いわみぎんざんかいどう 石見銀山街道 [シルバーラッシュの賑わいを今に伝える歴史の道]

大田市

【所在地】大田市 【アクセス】起点となる大森町へは、JR大田市駅からバスで30分、大森下車

石見銀山で産出した銀・銀鉱石や諸物資の輸送路として使われた街道です。16世紀前半、銀山開発当初の大内氏支配期に、瀬ヶ浦が銀鉱石の積出港として機能していた頃に利用された瀬ヶ浦道(全長約7km)と、大内氏の後に毛利氏が支配するようになり、温泉津・沖泊が石見銀山支配の拠点とされた16世紀後半に、その外港として銀や諸物資の搬入のために利用された温泉津沖泊道(全長約12km)の2本の街道があります。石畳や土橋などがよく残り、道標・石碑・石仏などもみられます。また、平成29年1月には温泉津、小浜から銀山に向う街道の一部「梨ノ木坂道跡」が県史跡となりました。



みち やなしお道 [ウォーキングに最適]

歴史の道百選

美郷町

【所在地】美郷町 【アクセス】「やなしお坂登口」まで、(灰屋)バス停から徒歩10分/石見銀山世界遺産センターから車で20分

「やなしお道」の歴史は古く、中世の文書にも記載があります。山陰・山陽を結ぶ主要な道の一つで、近世には銀を大森から尾道まで輸送するための「銀山街道」として賑わいました。近年行われた発掘調査では、真砂土と粘土を交互に重ね突き固めた「版築」工法で整備されていることが判りました。一里塚、土橋、水溜場跡等が残るこの道は、文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれ、一部は中国自然遊歩道として利用されています。



市指定史跡

つとこざか りょうかいひょうちゅう 土床坂の領界標柱 [石畳の坂道]

江津市

【所在地】江津市江津本町 【アクセス】JR江津駅から徒歩で30分/江津ICから車で3分

土床坂は、天領(江津本町)と浜田領(嘉久志町)の引継ぎ地にあたる直進指向の強い坂道で、頂上には「従是西浜田領」の標柱が建っています。この坂道区間では元々幅1.8mほどの石畳が250mほど敷かれていましたが、現在では50mほどの区間に石畳が残っています。土床坂の頂上から江津本町へ延びる直線道路は、往時の繁栄振りをひっそりと、現在に伝えています。



国指定史跡

いじみいちりづか 伊志見一里塚 [近世山陰道中の旅人たちを偲ぶ]

松江市

【所在地】松江市中央町伊志見44 【アクセス】JR庄原駅から徒歩約15分/JR松江駅から車で約35分

山陰道にあって、松江城下から西へ5里(約20km)の地点に築かれた一里塚です。道を挟んで南北に二つの塚があり、北の塚は直径約5.1m、高さ1.3m、南の塚は直径約5m、高さ0.7mあります。当時、塚には松の木が植えられており、往来する人々の目印として重要な役割を果たしていたようです。



国指定史跡

しゅっさい・いわのいちりづか 出西・伊波野一里塚 [旅人の道しるべ]

出雲市

【所在地】出雲市斐川町神水1879番 【アクセス】JR庄原駅・直江駅から徒歩で10分/斐川ICから車で5分

徳川幕府の命により街道の両側に一里(約4km)ごとに築かれたこの塚は、昔は3本の松が植えられていました。昭和29年(1954)の台風や46年の雪害により松は枯死し、現在は直径約5m、高さ1mの東西二基の塚だけが残されています。



国指定史跡

やすぎいちりづか 安来一里塚 [江戸時代の旅人のオアシス]

安来市

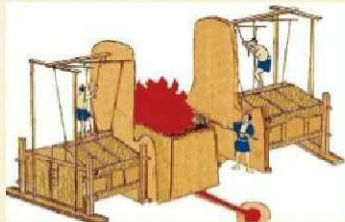
【所在地】安来市安来町788-819 【アクセス】安来ICから車で10分

安来一里塚は南北2つの塚からなり、それぞれの塚には松の大木が植えられていました。しかし昭和50年代に、松食虫の被害を受けたため伐採され、現在では二代目の松が植えられています。

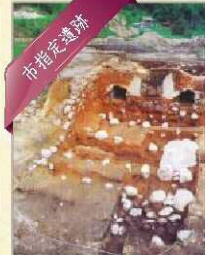


近世の製鉄遺跡

近世から近代のはじめにかけて、出雲地方や伯耆地方の山間部を中心に、砂鉄を原料に鉄をつくる「たたら製鉄」が盛んに行われていました。



「たたら製鉄」には、大量の砂鉄と木炭が必要でした。砂鉄は山を崩してその土砂を水に流して採取されました。これを「鉄穴(かなな)流し」といいます。たたら用の木炭は「大炭(おおすみ)」といい、専用の炭窯で大量に生産されました。これらの材料を使い、「村下(むらげ)」の指揮監督のもと「たたら」で鉄が生産されました。「たたら製鉄」に関わる人々が住む地域は「山内(さんない)」と呼ばれ、100人前後の人々が住んでいたといわれています。(平成28年4月に「出雲國たたら風土記」として一部が日本遺産に認定)



泉原たたら跡
(いずみはらたたらあと)
【市指定遺跡】
【飯南町】

「本床」「小舟」などが確認され、石見と備後地方の特徴を備えた構造であることが指摘されています。



本谷山たたら跡
(ほんたにやまたたらあと)
【市指定遺跡】
【益田市】

文政7年(1824)から天保2年(1831)までの7年間稼働された「たたら」で、地下には本床や小舟が残り、表には石置通りの遺構が見られます。

県指定遺跡

おんち あと 日本遺産 国選定重要文化的景観 陰地たたら跡 [たたら関係遺構が集中]

【奥出雲町】

【所在地】奥出雲町大谷817番外 【アクセス】「絲原記念館前」バス停から徒歩で5分/三刀屋木次ICから車で40分

谷の入口(北側)の平坦地に銚跡や鉄穴洗い場跡が、谷奥には導水管と炭窯跡、南側高所には鉄穴切り羽跡等、各種の施設が確認されています。調査により、17世紀頃につくられたと考えられる4基の炉床が確認されました。内3基は順次つくり変えられ、その発展過程が明らかにされました。鉄の生産量が増加する近世銚の成立する直前の形態を知るうえで貴重な遺跡です。また、周辺には、鉄穴たたら跡(絲原家前庭)、銚垣内たたら跡など、多くの製鉄跡があり、たたら製鉄の歴史を知るうえで重要な地域です。



国選定重要文化的景観

すがや さんない 日本遺産 菅谷たたら山内 [たたら職人たちの息吹を今に伝える]

【雲南市】

【所在地】雲南市吉田町吉田4210-2 【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で30分/雲南吉田ICから車で10分

「菅谷たたら山内」は、たたら操業の中核となる高殿・元小屋をはじめとした製鉄関連施設や、かつてたたら製鉄に携わった人々の集落が一体となった「山内」が全国で唯一残された産業遺産です。たたら製鉄が行われた高殿や山内の景観からは、操業当時のたたら製鉄に従事した人々の息吹が伝わってきます。



国指定史跡

たぎさくらい け せいてつ い せき 田儀櫻井家たたら製鉄遺跡

【出雲市】

【山と海を利用した出雲のたたら群】

【所在地】出雲市多伎町奥田橋 【アクセス】JR田儀駅からタクシー利用15分、出雲ICから大田市方面へ車で30分(宮本鍛冶山内遺跡)

田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、かつて田儀櫻井家の本拠地であった宮本鍛冶山内遺跡、田儀櫻井家経営のたたら場である越堂たたら跡・聖谷たたら跡・朝日たたら跡を含めた遺跡群の総称です。

宮本鍛冶山内遺跡 (みやもとたぎさんないいせき)

出雲市多伎町奥田橋宮本には、かつて製鉄業で栄えた町が残されています。峡谷にコンパクトに残される遺構群は、寺院・神社・墓などの宗教施設、田儀櫻井家当主が居を構えた本宅跡、大鍛冶を中心とした生産跡など見所が満載です。このように一箇所で製鉄関係の遺構群が良好に残る場所は全国でも稀といえます。



越堂たたら跡 (こえどうたたらあと)

出雲市多伎町口田儀に所在するたたら製鉄の遺跡です。この遺跡は、日本海から約1kmと海から近い場所に立地し、その地理的条件を活かし、たたら原材料(砂鉄・木炭)の調達から鉄製品の搬出に至るまで、海運を利用した点が特徴的です。その姿は、現在の臨海製鉄所に通ずるものがあります。



田儀櫻井家の特徴

田儀櫻井家は、江戸時代から明治時代まで、出雲西部地域(旧神門郡)を中心に活躍した鉄師です。奥田儀宮本を拠点として、山間部地域でたたら製鉄を営みつつ、沿岸地域にもたたら場を構えて製鉄を行っていました。

こうして生まれた鉄製品は、日本海の廻船を利用して全国各地へと運ばれました。また砂鉄、木炭等原料も船で搬入する場合があります。奥出雲の鉄師とは違った独自の経営方法で、地元の経済を支えていたのです。



古蹟史跡
市指定史跡

おとしり あと
大鳥たたら跡 [益田のたたら跡]

益田市

【所在地】益田市美都町宇津川1481-3ほか 【アクセス】道の駅「サンエイとみと」から車で約15分

大鳥たたら跡は、正徳4年(1714)日原村の原田勘四郎が創業し、経営者の交代、栄枯盛衰はあるものの明治9年(1875)まで約160年間続きました。「吹屋床」「勤場」等の地名が残る現地には愛宕神社、ウラジロガシの巨木、関連墓所も見られます。



町指定有形民俗文化財

ほないだにこうざんかなながし ほんばんせつび 日本遺産 国選定重要文化的景観
羽内谷鉱山鉄穴流し本番設備 [全国で最後まで稼働した遺構]

奥出雲町

【所在地】奥出雲町竹崎 【アクセス】「斐乃上荘入口」バス停から徒歩10分/三刀屋木次ICから車で60分

たたら製鉄の原料となる砂鉄を採取する「鉄穴流し」の最終工程を行う設備です。鉄師ト蔵家が稼働した鉄穴場でしたが、のちに鳥上木炭鋸工場が引き継ぎ、昭和47年まで稼働しました。

上流で砂鉄を含んだ山土を掘り崩してこの本場に流し込み、比重を利用して軽い土砂を下手に流し、重い砂鉄を沈殿させることにより最終的に90%程度まで純度を高めました。

昭和47年に廃止されるまで、ここでは1日2~4トンが採取されました。

完全な形で保存されており、鉄穴流しの技法を知る上で貴重な遺構です。



浜田市金城歴史民俗資料館

たたらや周辺遺跡から出土した考古資料などを展示しています。

【所在地】浜田市金城町波佐1438番地1 【電話】0855-44-0146
【休館日】月曜日~金曜日、12/29~1/3
【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有り(30台)
【入館料】一般300円、中・高・大学生100円、小学生60円
【アクセス】「東谷下」バス停から徒歩約1分/金城PAスマートICから車で約20分



邑南町郷土館

町内ゆかりの民具、考古資料などの他、別館には「天秤ふいご」を展示しています。

【所在地】邑南町下亀谷210番地 【電話】0855-83-1580
【休館日】土、日及び祝日、年末年始
【開館時間】9:00~16:00
【駐車場】有り(30台)
【入館料】無料
【アクセス】道の駅「瑞穂」から徒歩約5分/大朝ICから車で約20分



絲原記念館

松江藩鉄師絲原家が伝承してきた、たたら製鉄資料などが展示されています。

【所在地】仁多郡奥出雲町大谷856 【電話】0854-52-0151
【休館日】年6日(3月、6月、9月下旬に各3日)
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】一般650円、高校・中学生450円、小・中学生250円
【駐車場】有り(100台)
【アクセス】「絲原記念館前」バス停から徒歩すぐ/三刀屋木次ICから車で40分



可部屋集成館

松江藩鉄師櫻井家が歴代に渡って伝承してきた美術工芸品やたたら製鉄資料などが展示されています。

【所在地】仁多郡奥出雲町上阿井1655 【電話】0854-56-0800
【休館日】月曜日及び冬期休館(詳細はお問い合わせ下さい)
【開館時間】9:00~16:30
【入館料】一般700円、大学生・高校生400円、中学生・小学生300円
【駐車場】有り(50台)
【アクセス】「内容庫車」バス停から徒歩で3分/三刀屋木次ICから車で50分



鉄の歴史博物館

たたら製鉄の歴史や技術・人々が使っていた道具などの展示、鉄山師田部家の紹介もあります。

【所在地】雲南市吉田町吉田2533 【電話】0854-74-0043
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】一般510円、小・中学生250円
【駐車場】有り(30台)
【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で3分/「菅谷たたら山内」から車で5分



鉄の未来科学館

菅谷たたら製鉄炉の地下構造や洋式高炉の大型模型などが展示されています。

【所在地】雲南市吉田町吉田892-1 【電話】0854-74-0921
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】一般510円、小・中学生250円
【駐車場】有り(20台)
【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で40分/「菅谷たたら山内」から車で8分



奥出雲たたらと刀剣館

現在操業されている「日刀保たたら」とここで生産される「玉鋼」を用いて造られる「日本美術刀剣」の展示解説を行っています。

【所在地】奥出雲町横田1380-1 【電話】0854-52-2770
【休館日】月曜日及び12/28~1/4
【開館時間】9:30~16:30
【入館料】一般524円、小・中学生258円
【駐車場】有り(30台)
【アクセス】「横田中学校」バス停から徒歩で2分/三刀屋木次ICから車で40分



和鋼博物館

古来より鉄の積み出し港だった安来港の近くにあり、たたら製鉄に代表される鉄の歴史や文化、産業について展示しています。

【所在地】安来市安来町1058 【電話】0854-23-2500
【休館日】水曜日(祝日の場合は翌日)12月29日~1月3日
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】一般300円、高校生200円、小・中学生無料
【駐車場】有(大型車2台、普通車約80台)
【アクセス】JR安来駅から徒歩で15分/安来ICから車で10分



- 02 石見国の近世・近代遺跡と博物館・資料館
- 03 1 津和野城跡 2 森園外旧宅 3 西周旧居
 - 04 4 津和野藩校養老館 5 岡熊臣旧宅 6 旧道面家住宅
 - 05 7 唐人焼窯跡 8 岸静江の墓及び馬原関門跡 9 浜田城跡
 - 06 10 石見銀山遺跡
 - 08 11 久喜床屋製錬遺跡 12 久喜製錬所遺跡群 13 津和野町郷土館 14 森園外記念館
 - 09 15 津和野町日原歴史民俗資料館 16 益田市立歴史民俗資料館 17 石見銀山資料館
 - 18 18 石見銀山世界遺産センター 19 浜田市浜田郷土資料館 20 江津市郷土資料館

10 出雲国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- 11 1 松江城 2 松江藩主松平家墓所
- 12 3 小泉八雲旧居 4 興雲閣 5 松江藩主堀尾忠晴墓所
- 13 6 網屋浜台場跡・河下台場跡
- 7 小泉八雲記念館 8 米待ストーンミュージアム
- 9 八雲郷土文化保存伝習施設 10 松江歴史館
- 11 横田郷土資料館 12 雲州久長沢焼窯跡

14 隠岐国の近世・近代遺跡

- 15 1 焼火神社社務所石垣 2 村上助九郎邸 3 赤はげ山の名垣
- 4 佐々木家住宅 5 旧周吉外三部役所庁舎(隠岐郷土館) 6 都万目の民家

16 近世の街道

- 17 1 山陰道(野坂峠越) 2 山陰道(徳城峠越) 3 石見銀山街道 4 やなしお道
- 5 土床坂の鎮界標柱 6 伊志見一里塚 7 出西-伊波野一里塚 8 安来一里塚

18 近世の製鉄遺跡

- 19 1 隠地たたら跡 2 菅谷たたら山内
- 3 田儀櫻井家たたら製鉄遺跡
(越堂たたら跡、聖谷たたら跡、朝日たたら跡、
宮本鍛冶山内遺跡)
- 20 4 大鳥たたら跡
- 5 羽内谷鉱山鉄穴流し本番設備
- 6 浜田市金城歴史民俗資料館
- 7 邑南町郷土館
- 8 絲原記念館
- 9 可部屋集館
- 10 鉄の歴史博物館
- 11 鉄の未来科学館
- 12 奥出雲たたらと刀剣館
- 13 和鋼博物館



山陰の 近世・近代遺跡 分布 MAP



伯耆国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- 24 1 米子城跡と城下町・山陰歴史館
- 25 2 中村一忠墓地 3 荒尾家墓所 4 心光寺庭園 5 掩体壕
- 26 6 商家の町並みと後藤家住宅 7 深田氏庭園 8 所子集落の町並み
- 27 9 大山寺旧境内と大山道 10 黒坂鏡山城跡
- 28 11 根雨宿 12 都合山たたら 13 法勝寺電車 14 御来屋駅
- 29 15 荒尾家墓所 16 玉川周辺の町並み
- 30 17 橋津の藩倉 18 三徳山 19 清水川・小鴨川砂防堰堤
- 31 20 八橋城跡 21 津田家墓所 22 築港と河本家住宅
- 32 23 六尾反射炉跡 24 由良台場跡 25 境台場跡 26 淀江台場跡
- 33 27 橋津台場跡 28 浦富台場跡 29 赤崎台場跡

因幡国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- 34 1 鳥取城跡附太閤ヶ平 2 宝隆院庭園と仁風閣
- 35 3 禊路神社(鳥取東照宮) 4 興禪寺庭園 5 鳥取城下町の名残り 6 荒木又右衛門の墓
- 36 7 観音院庭園 8 高砂屋(城下町とつり交流館) 9 鳥取市歴史博物館(やまびこ館)
- 37 10 鳥取県立博物館
- 38 11 鳥取藩主池田家墓所 12 難殿家墓地
- 39 13 山陰道蒲生峠越 14 旧美敷水源地水道施設
- 40 15 鹿野城跡と鹿野の町並み 16 亀井茲矩公墓所 17 景石城跡と用瀬の町並み
- 41 18 若桜鬼ヶ城跡 19 若桜鉄道 20 若桜町歴史民俗資料館・三田氏住宅
- 42 21 曾根往来志戸坂峠越 22 石谷家住宅 23 板井原集落
- 43 24 乾氏墓地 25 因久山焼登窯



伯耆国の近世・近代遺跡

近世の伯耆国では、関ヶ原の戦いにより南条・吉川氏が去った後、中村一忠が伯耆18万石米子城主として伯耆一円を支配しました。中村氏が米子騒動などを経て一代で改易となった後は、加藤貞泰(米子)、市橋長勝(八橋)、関一政(日野)の中小大名に分割されましたが、これも長くは続かず、元和3年(1617)に姫路から池田光政が鳥取に入り、因幡・伯耆2国を統治することとなりました。さらに15年後の寛永9年(1632)には岡山藩との「お国替え」となり、池田光仲が初代藩主となりました。その後、明治4年(1871)の廃藩置県を迎えるまで、鳥取池田家12代によって因幡・伯耆両国は統治されましたが、藩政の中心地は藩庁のある鳥取であり、米子・倉吉など伯耆国の枢要地は重臣が実質支配する自分手政治に委ねられました。

政治に関わる遺跡としては、米子城跡・黒坂城跡をはじめとする各大名や重臣の居城・陣屋跡や墓所、幕末期の国際情勢に対応するために造営された台場跡・反射炉跡などが知られています。さらに年貢米を集約する橋津藩倉などの灘御蔵や回米の積み出しなどを行った菊港の防波堤なども残っています。一方、商業で栄えた倉吉の町、農村集落の所子などは伝統的な町並みが往時の面影をよくとどめ、米子では城下町の発掘調査も進んでいます。伯耆国は中国山地の良質な砂鉄を原材料とした「たたら」による鉄生産が盛んであったため、山間部にはたたら遺跡が数多く残っています。

信仰にかかわる遺跡としては、大山寺旧境内(大山寺・大神山神社)と三徳山(三仏寺)などがあげられます。特に大山寺は寺領三千石を認められ鳥取藩から独立していました。

近世にさかのぼる庭園として深田氏・庄司氏などの豪農の庭園、正善院・心光寺などの寺院庭園があります。街道・往来としては、大山道や八橋往来などは歴史の道としてのたたずまいを残しており、古道の整備や失われたルートの調査が進められています。

明治以降の近代化遺産・近代遺跡としては、都合山たたら、法勝寺電車、旧海軍美保航空基地の掩体壕、清水川・小鴨川砂防堰堤を取り上げました。



国指定史跡

よな ごじょうあと じょうかまち 米子城跡と城下町 [大小天守をもつ山陰随一の名城] 米子市

【所在地】米子市久米町96-1 【アクセス】JR 米子駅からだんだんバス「湊山公園」から徒歩5分 JR 米子駅から車で3分



米子の中心地、標高90メートルの湊山に築かれた米子城は、別名「久米城」とも呼ばれ、山陰地方で他に先駆けて築かれた本格的な近世初期の城郭です。戦国時代、飯山に砦が築かれたことが始まりと伝えられ、その後、毛利方の吉川広家によって本格的な築城が開始されました。関ヶ原の戦い後に封ぜられた中村一忠によって完成された城は、山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣を持つ壮麗な城で、周囲には二重の堀が巡らされていました。また、臺の高台には二の丸御殿、内堀と外堀の間には武家屋敷が建ち並び、堀の外側に定められた町人町には伯耆各地の町人が移り住み、城下町として賑わいを見せていました。

明治6年、米子城は商人に売却され取り壊されましたが、西伯耆を一望できる天守台からの眺望は今尚、多くの人々から親しまれています。

現在、米子城の二の丸跡の南東側にある小原家長屋門は、鳥取藩の米子城預かりであった荒尾家の家臣、小原家の屋敷の一部で、家臣などを住ませるために使用された建物です。市内に残る唯一の武家の建物で、かつては米子城下の西町にありましたが、昭和28年に現在の位置に移築保存されました。



**さんいんれきしかん
山陰歴史館**

四重櫓の城など米子城に関連する資料を中心に展示。旧米子市役所を利用した歴史資料館です。

【所在地】米子市中町20
【電話】0859-22-7161
【入館料】無料 【開館時間】9:30~18:00
【休館日】火曜(祝日の場合翌日)、年末年始
【駐車場】米子市役所駐車場※駐車券提示で2時間無料

市指定史跡

なかむらかすただ ぼ ち
中村一忠墓地 [感應寺に眠る若き米子城主]

米子市

【所在地】米子市祇園町1-89 【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「商工中金前」から徒歩10分 JR米子駅から車で3分

中村家の菩提寺である感應寺には、中村一忠の墓地があります。11歳の若さで伯耆18万石の城主となった一忠は、慶長14年(1609)に20歳の若さで病死し、後継ぎが無かったために中村家は断絶となりました。墓地には主君に殉死した2人の家臣も葬られ、感應寺本堂には一忠と家臣2人の木像が祀られています。



国重要文化財

しょうか まちな ごとうけしゅうたく
商家の町並みと後藤家住宅 [商都を支えた土蔵群]

米子市

【所在地】米子市瀬町〜尾高町界隈 米子市内町72(後藤家住宅)
【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「天神橋」から徒歩5分 JR米子駅から車で5分

米子城下の旧加茂川沿いは、かつて米問屋、廻船問屋などの屋敷が建ち並び、米子港とを結ぶ水上交通路としてにぎわっていました。旧加茂川を含む旧外堀沿いには、現在も多くの土蔵が残されています。なかでも江戸時代を通じて活躍した廻船問屋後藤家住宅(国重要文化財)は、江戸中期に建てられた町家で、周辺の町並みとあわせて商都米子の姿を今に伝えています。



市指定史跡

あらおけぼしよ
荒尾家墓所 [米子城預かり荒尾家歴代の墓碑]

米子市

【所在地】米子市博労町2丁目59 【アクセス】JR境線博労町駅から徒歩3分 JR米子駅から車で5分

祥光山了春寺の荒尾家墓所には、初代成利と10代成裕を除く2代目から13代目の荒尾家歴代の墓碑が建ち並んでいます。主席家老であった荒尾成利は、藩主池田光仲の鳥取への国替えに伴い米子城預かりを幕府から命ぜられ、以後237年間、荒尾家に米子城下町の政治が任せられていました。



国名勝

ふかだ していえん
深田氏庭園 [中世より続く豪族の庭]

米子市

【所在地】米子市車尾5-6-22 【アクセス】JR米子駅から路線バス「車尾小学校北口」から徒歩5分 JR米子駅から車で5分

深田氏庭園は、中世以来伯耆の開拓に携わった豪族深田氏の庭園です。元弘2年(1332)に後醍醐天皇が隠岐へ流される際に立ち寄ったと伝えられています。庭園内に三尊組石を配置し、池中には鶴や亀を模した島が築かれ、仏による庇護と代々の繁栄の願いが表現されています。



県名勝

しんこう じていえん
心光寺庭園 [泉湧き出る寺院庭園]

米子市

【所在地】米子市寺町39 【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「高島屋前」から徒歩10分 JR米子駅から車で5分

米子城下の寺町にある心光寺の池庭です。寺伝によると天保年間の作庭とされています。湧水による池は「心」の字の形に造られ、左右の畔は、鶴と亀を表現しています。小規模ながらも近世の寺院庭園の様子を今に伝えます。



戦後遺跡

えんたいごう
掩体壕

米子市



米子空港周辺には、掩体壕と呼ばれるドーム型をした鉄筋コンクリート造りの構造物が点在しています。これらはアジア・太平洋戦争中、空襲から航空機や通信機材を守るための格納庫として当時の海軍美保航空隊によって築造されたものです。

国重要文化財

ところごしゅうらく まちな
所子集落の町並み [近世の農村景観]

大山町

国重要伝統的建造物群保存地区

【所在地】大山町所子360ほか 【アクセス】JR大山口から徒歩15分 大山IC降り口から車で2分

所子集落は、豊峰大山の北麓に位置し、阿弥陀川からの水利を生命線とする田畑を生産基盤として発展した農村集落です。大庄屋を勤めた門脇家の住宅(国重要文化財)をはじめ、近世の町並みとその形成の過程が、集落を取り巻く田畑とともに現在まで伝わっています。



図指定史跡

だいせん じきゅうけいだい だいせんみち
大山寺旧境内と大山道

日本遺産

【中国地方随一の山林寺院】 **大山町**

【所在地】大山町大山1番地ほか 【アクセス】大山IC降り口から車で20分(神楽産駐車場) 神楽産駐車場から国道徒歩ルートあり



大山道(横手道)

霊峰大山の北面中腹に営まれた大山寺は、平安時代後期には修験道や大智明権現(地藏菩薩の垂迹)信仰で

知られました。国家鎮護祈願の寺院として、朝廷や幕府、周辺有力者を壇越にして勢力を延ばし、中世後期には守護大名や戦国大名などを壇越とする有力な大寺院として君臨しました。

中世末に衰微したものの、近世には慶長15年(1610)に幕府から三千石の所領を安堵され、信仰の山としての一山支配とともに寺領政治を展開しました。民間信仰の普及によって地藏信仰と牛馬信仰の中心として、また、境内下の博労座で行われた牛馬市の盛行もあって隆盛を極めました。

明治8年には神仏分離と廃仏毀釈の影響下で、大山寺号が廃絶されるという壊滅的打撃を受け、大智明権現社が分離されて大神山神社奥宮と定められました。明治36年に大山寺再興が許され、かつての大山寺の法灯は、大神山神社奥宮と新たに興された大山寺に伝えられています。



重要文化財 大神山神社奥宮



くろさかがみやまじょうあと

黒坂鏡山城跡 [5万石関家の居城]

日野町

【所在地】日野町黒坂 【アクセス】JR黒坂駅から徒歩20分

蒲生氏郷の与力として活躍した関一政が、慶長15年(1610)に伯耆国日野・会見・汗入5万石に国替えとなり、この時黒坂鏡山城が整備されました。

城跡は、山頂の主郭群や東側山麓部の館跡からなり、近世城郭を感じさせる石垣が見事に残ります。

もともとあった中世の山城を一政の入城に際して山裾部を整備したものと考えられています。



黒坂鏡山城の石垣

近代化遺産

つごうやま ねうしゆく
都合山たたらと根雨宿

国登録

日野町

【明治のたたら跡とたたら製鉄で栄えた宿場町】

【所在】都合山たたら:日野町中管/根雨宿:日野町根雨845ほか
【アクセス】都合山たたら:JR上管駅から徒歩約1時間/根雨宿:JR根雨駅から徒歩3分

鳥取県の南西部、日野川上流沿いの奥日野地域では、良質の砂鉄が産出することから、古来より「たたら製鉄」が盛んに行われていました。

日野町中管には、明治時代に東京帝国大学の侯爵一博士が調査記録を残した「都合山たたら」跡があり、建屋こそ残っていないものの、創業時の姿を今に残す貴重な産業遺産として脚光を浴びています。

また、都合山をはじめ、江戸時代から大正にかけて数多くのたたら場を経営した日野町根雨の鉄山師・近藤家は、卓越した経営手腕を発揮する一方、地域の文化・教育振興に尽力したことで知られ、かつての交通の要衝・出雲街道根雨宿の町並みにも往時の面影を垣間見ることができます。



発掘調査時の都合山たたら高炉跡



根雨宿の町並み(近藤家住宅)

近代化遺産

ほうしょうじてんしゃ
法勝寺電車
[懐しのナンチン電車]

雨都町



丘を切り崩してつづられた元電車軌道

大正11年に営業を開始した米子・法勝寺間12.4kmを結んだ電気鉄道。昭和42年に廃線となったが、切通しの電車軌道跡やプラットフォーム、トンネル(厚里線)などを現在もたどることができます。電動客車と明治20年英国製の客車(県指定保護文化財)も保存されています。

近代化遺産

みくりやえき
御来屋駅
[山陰最古の駅舎]

国登録

大山町



御来屋駅の駅舎

明治35年11月1日、山陰線敷設第1期区間として境〜御来屋間が開通しました。御来屋駅舎は、明治35年の建築以降、改修を重ねながら、山陰現存最古の現役の駅舎として、今でも地元の人々に利用されています。

市指定史跡

あらおけほしよ
荒尾家墓所 【倉吉荒尾家当主の眠る墓所】

倉吉市

【所在地】倉吉市仲ノ町2967 【アクセス】倉吉駅からバス関金(市役所・みどり町経由) 山口線「長谷寺西口」から徒歩10分



初代を中心に立ち並ぶ墓碑

江戸時代、寛永9年(1632)から幕末まで倉吉を治めた鳥取藩家老荒尾氏の墓所です。打吹山の西端、長谷寺の庫裏近くの尾根上にあり、初代嵩就(たかなり)公から九代世就(せつなり)公までの9基の墓碑が整然と配置されています。正面は初代を中心に四代まで、手前右側に六代・七代、左側に九代・五代・八代が立ち並びます。

当主の墓碑のみであることから供養塔的な性格といわれています。墓碑は高さ約3.3mに及び、大きな自然石を加工したもので、2段の切石の基礎石の上に基標をのせています。位牌



は菩提寺の満正寺に祀られています。「倉吉荒尾家墓所附位牌群」として平成18年に市指定となりました。

なお、鳥取市景福寺にある倉吉荒尾氏墓所には、代々の当主のほか奥方や係累の方々の墓碑が数十基林立しています。

県保護文化財

はしづ はんそう
橋津の藩倉 【全国で数少ない現存する藩蔵】

湯梨浜町

【所在地】東伯郡湯梨浜町大字橋津173-2ほか
【アクセス】倉吉駅からバス橋津線「橋津中央入口」から徒歩5分 青谷羽合道路羽合ICから車で5分

湯梨浜町橋津には山陰地方で唯一、江戸時代の御蔵が現存しています。こうした御蔵はほかに岩手県盛岡市、熊本県熊本市、宇土市等にわずかに残るのみとなっており、全国的にもたいへん貴重なものです。橋津御蔵の最盛期には14棟の土蔵と1棟の計屋が軒を連ね、近郷から最大で約5万俵の年貢米を収納したといわれています。

これらの米は船で大阪に運ばれ、鳥取藩の財政をうるおしました。現在は「古御蔵」「三十間北蔵」「片山蔵」の3棟のみとなりましたが、「古御蔵」には建築年代を特定する「古御蔵貳番御建替」「天保十四癸卯年五月出来」の棟札が残されており、蔵とあわせて歴史を伝えています。



天保十四年の棟札の残る古御蔵



たまがわしゅうへん まち
玉川周辺の町並み 【町人文化の香る伝統的町並み】

倉吉市

国重要伝統的建造物群保存地区

【所在地】倉吉市魚町・研屋町ほか 【アクセス】倉吉市役所から徒歩5分 駐車場:琴桜観光駐車場



旧倉吉市街地は、打吹山の北麓を東西に細長く形成されています。この町並みは戦国時代の打吹城下町をもとに、江戸時代に陣屋町として整備されたものが土台となっています。倉吉は江戸時代から大正時代にかけて木綿と稲扱千刃の産地として繁栄した商業都市でした。町家は東から本町通り、岩倉町通り、河原町通りと連なり、明治から昭和戦前の歴史的景観を今に伝えています。

東寄りの約4.7haが伝統的建造物群保存地区として選定されています。表側の切妻造、平入の主屋が立ち並ぶ本町通りと、裏側の白壁土蔵群と石橋が連続する玉川沿いからなります。

赤褐色の石州瓦の屋根、軒まわりの海老状に曲がった腕木や持送り、腰格子や繊細な出格子等の豊かな意匠に地域的特色が現れています。



国名勝及び史跡

みとくさん
三徳山 【山上に点在する社寺建築】

国宝

三朝町

国重要文化財 日本遺産

【所在地】東伯郡三朝町三徳1010 【アクセス】倉吉駅から三徳山行きバスで40分「三徳山参道入口」または「三徳」下車

平安時代以来多くのの人々の信仰の対象となってきた三徳山は、因幡伯耆2国の領主となった鳥取池田家からも庇護を受け、藩主のための祈祷等を行っていました。山内には、江戸時代に建てられた三仏寺本堂をはじめとする江戸時代の建造物6棟のほか、当時をしのぶ多くのものが残されています。



県保護文化財三仏寺本堂



●三徳山
【参拝料】400円
【入山料】200円(各種割引有)
【入山条件】2名以上
(登山可能な靴・服装)雨天時は不可。

近代化遺産

清水川・小鴨川砂防堰堤
【砂防の役割を担う土木遺産】

国登録 倉吉市

鳥取県三大河川の一つ、天神川の上流に設けられた堰堤で、昭和5年の室戸台風の大水害を契機に昭和12~19年に建設されました。災害との闘いを知る貴重な近代化遺産です。清水川の最上流部に位置する第五堰堤は堤長約63m、堤高約4mの規模です。堰堤は深い樹林に囲まれ清流が流れ落ち、自然と調和しています。

清水川堰堤5基、小鴨川堰堤3基は国登録有形文化財に登録されています。



町指定史跡

やばせしょうあと
八橋城跡

琴浦町

【5万石関家の居城】

【所在地】琴浦町八橋 【アクセス】JR八橋駅から徒歩5分



戦国時代、毛利氏と尼子氏との勢力争いの舞台となった八橋城は、慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦以降、中村氏・市橋氏・池田氏(光政)とその領主を変えていき、元和3年(1617)、一国一城令のため廃城となります。その後池田光仲が入国した後は、明治をわけるまで着座家である津田家の陣屋が置かれていました。現在は、山陰線に一部壊されてしまっていますが、所々にこの石垣から往時をしのぶことができます。

町指定史跡

つだけほしよ
津田家墓所

琴浦町

【自然石を利用した幽玄な墓碑】

【所在地】琴浦町八橋1336 【アクセス】JR八橋駅から徒歩10分



津田家は、鳥取藩士の家格のうち最も格式の高く家老職に就くことのできる着座家のひとつであり、米子荒尾家、倉吉荒尾家、磯殿家(浦富)、乾家(船岡)などとともに、領地を藩主から預り、直接町政を行うことができる「自分手政治」が許されていました。津田家の菩提寺である体玄寺には、歴代津田家当主の墓が整然と並んでいます。



国指定史跡

とっとりはんたいば むつおはんしゃるあと
鳥取藩台場と六尾反射炉跡

町指定史跡

各所

【幕末の混乱期に造られた海の備え】

【所在地】由良台場跡:北栄町由良宿東浜1457(お台場公園)/境台場跡:境港市花町10ほか(台場公園)/淀江台場跡:米子市淀江町今津267-1/橋津台場跡:湯梨浜町長瀬2032(東郷湖羽合臨海公園)/浦富台場跡:岩美町浦富2250-2ほか/赤崎台場跡:琴浦町赤崎1973ほか
【アクセス】由良台場跡:JR由良駅から徒歩30分/境台場跡:JR境港駅から徒歩20分/淀江台場跡:JR淀江駅から徒歩10分/橋津台場跡:JR倉吉駅から車で20分/浦富台場跡:JR岩美駅から徒歩30分/赤崎台場跡:JR赤崎駅から徒歩10分



江戸時代末期、諸外国との緊張関係のなかで、海防意識の高まりから幕府・諸藩は各地の沿岸部に台場(砲台)を築いていきました。鳥取藩は領内の海岸線東西40里のうち、枢要箇所8ヶ所(または9ヶ所)に台場を築造し、由良に造られた六尾反射炉(町指定史跡)で生産された大砲が配備されました。藩内で築かれた台場のうち、現在6ヶ所が国史跡にされています。なかでも、由良台場跡は、西洋式の築城技術を取り入れた鳥取藩台場の特徴をよく残しており、現在お台場公園として人々に親しまれています。



おすすめ

海に関する施設を巡るコース



国重要文化財

きくみなと かわもとけじゅうたく
菊港と河本家住宅【町人文化の香る伝統的町並み】

琴浦町

【所在地】菊港:琴浦町赤崎 河本家住宅:琴浦町筒津38
【アクセス】菊港:バス停「赤崎地区公民館」より徒歩3分 河本家住宅:バス停「筒津」下車すぐ



玉石積みの波止場



※河本家住宅は年2回(春・秋)開催される一般公開で見学できます。

承応年間(1652~1655)に鳥取藩の藩倉と船番所が置かれた菊港は、鳥取十湊のひとつにも数えられた重要な港でした。現在も漁港として機能しているこの港の波止場は、江戸時代に人頭大の玉石を積み上げて造られたものです。代々大庄屋を務めた旧家である河本家住宅(国重要文化財)とともに、江戸時代赤崎地区の面影を今に伝えています。



因幡国の近世・近代遺跡

関ヶ原の戦い後の因幡国では、亀井氏(鹿野)を除く諸大名が因幡の地を追われ、新たに池田長吉(鳥取)、山崎家盛(若桜)が入封しました。さらに元和3年(1617)に姫路から池田光政が鳥取城に入り、因幡・伯耆2国を統治することとなり、鹿野城・若桜鬼ヶ城は一国一城令により廃城となりました。15年後の寛永9年(1632)には、岡山藩主池田忠雄が30歳の若さで急逝した際に、長子の勝五郎(後の池田光仲)はわずか3歳であったため、幕府の命を受けて因幡・伯耆へ、従兄である池田光政は岡山に移封する「お国替え」が行われました。その後、明治4年(1871)の廃藩置県を迎えるまで、鳥取池田家12代によって因幡・伯耆32万石が統治されました。

因幡国の政治に関わる近世遺跡としては、各大名の居城跡があり、特に若桜鬼ヶ城跡は廃城時の石垣を崩した様子をよく留めています。鳥取市内には藩政の中心であった鳥取城跡をはじめ、池田家関連の遺跡が多く知られています。城内の宝隆院庭園、藩主菩提寺の興禅寺庭園、祈願寺でもあった観音院庭園などです。現在、城跡には明治40年に池田侯爵が皇太子(後の大正天皇)行幸のために建設した洋館・仁風閣があります。池田光仲が勧請した因州東照宮(禰野神社)は、森厳な佇まいを今に伝えています。城下町を離れると藩主池田家の墓所や重臣たちの墓所、幕末期の海外情勢に対応した浦富台跡などが各地に残っています。また、因久山焼は藩御用窯の伝統を引き、江戸時代に築かれた登窯が現役で用いられています。

鳥取の城下町は地震と大火でその多くが失われていますが、わずかに残る武家屋敷や荒木又右衛門の墓などに往時をうかがうことができます。宿場町の智頭をはじめ、鹿野・用瀬などは歴史的な町並みを残しており、板井原集落は手付かずの山間集落のたたずまいを留めています。

街道・往来としては、但馬国境の山陰道蒲生峠越や参勤交代に用いられた智頭往来志戸坂峠越などに往時の古道が残り、歴史の道としても親しまれています。

明治以降の近代化遺産・近代遺跡としては、仁風閣のほか鳥取の水がめとしてライフラインを支えた旧美敷水源地水道施設や若桜鉄道(旧国鉄若桜線)・石谷家住宅を取り上げています。



重要文化財
旧因州池田屋敷表門(黒門)
 【東京に残る大名家上屋敷の名残り】
 東京上野公園の東京国立博物館内には、鳥取藩池田家江戸上屋敷の表門が移築・保存されており、当時の栄華をしのぶことができます。



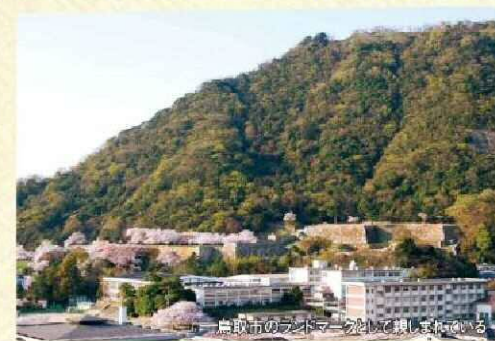
国指定史跡

とっとりじょうあとつけたりたいこうなる 鳥取城跡附太閤ヶ平

鳥取市

【戦国時代末期から近世までの政治的・軍事的拠点】

【所在地】鳥取市東町ほか 【アクセス】JR鳥取駅から日ノ丸・日交バス砂丘方面行き【西町】下車5分 ループバス鳥取城跡【鳥取城跡】下車2分



鳥取城跡は、性格の異なる二種類の遺跡で構成されています。16世紀半ばといわれる成立以降、天正8・9年(1580・81)に羽柴(豊臣)秀吉の侵攻までの久松山頂中心の「土の城」(中世城郭)と、それ以降江戸時代にかけての山裾を中心に石垣で構成された「石の城」(近世城郭)です。



現在の石垣の城は、秀吉の侵攻以後に配置された武將宮部継潤・長熙父子が土台を、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦い後に入った徳川方の武將池田長吉が基礎を整え、元和3年(1617)姫路城から移封した池田光政により完成しました。

寛永9年(1632)光政と交代した岡山城の池田光仲入城後は32万石鳥取池田家の治世となり、度重なる増改築を経て幕末へと至りました。享保5年(1720)の石黒大火では建物の大半を焼失し、再建後は三ノ丸を中心とした城整備が行われました。

明治時代に入ると建物は順次取り壊され、明治12年(1879)の三ノ丸三階櫓の解体をもって完了しました。石垣は、昭和18年の鳥取大地震により城内各所で大きな被害を受けており、現在、順次修理工事を行っています。

市指定名勝

ほうりゅういんていえん じんぶうかく 宝隆院庭園と仁風閣

鳥取市

【旧藩主による近代建築】

【所在地】鳥取市東町ほか 【アクセス】JR鳥取駅から日ノ丸・日交バス砂丘方面行き【西町】下車5分 ループバス鳥取城跡【鳥取城跡】下車2分

扇御殿と庭園は、第13代鳥取藩主夫人の宝隆院を慰めるために造営されたものです。庭園(市指定名勝)は、江戸時代末期に定型化した廻遊池泉式庭園の典型的な構成と、池や中島周辺の庭石配置などには京風の精練された手法が感じられます。

扇御殿の跡地には、明治40年に皇太子(のちの大正天皇)の山陰行啓の宿舎として、旧藩主池田侯爵家によって仁風閣(重要文化財)が建てられました。仁風閣は、片山東熊の設計で、ルネッサンス様式を基調とした木造二階建て、山陰地方における数少ない明治洋風建築物として貴重です。



鳥取城跡内にある宝隆院庭園と仁風閣

国指定文化財

おうだににじんじゃ(とっとりとうしょうぐう)
樗谿神社(鳥取東照宮)

【鳥取池田家の勧請した東照宮】 鳥取市

【所在地】鳥取市上町87 【アクセス】鳥取駅から循環バス
くる梨「樗谿公園やまびこ館」下車5分

池田光仲国替え後、日光東照宮の分霊を祀る社殿を造営した、慶安3年(1650)の創建で、本殿・唐門・幣殿・拝殿は、国指定重要文化財となっています。本殿は、入母屋造の檜皮葺。唐門・幣殿・拝殿は柿葺。建物の細部の手法は、日光東照宮にならった華麗なもので一部に彩色が施され、豪華な飾り金具が各所に施されています。



東照大権現(徳川家康)を祀る

こうぜん じ ていえん
興禅寺庭園 市指定名勝

【自然と調和した庭園】 鳥取市

【所在地】鳥取市栗谷町10 【アクセス】鳥取駅からループ
線騎獅子バス「鳥取城跡」下車5分

宗派は、黄檗宗。本尊は、釈迦如来。鳥取藩主池田家の菩提寺で、寛永9年(1632)藩主池田光仲の国替えとともに岡山より移転してきました。庭園形式は、池泉観賞式の武家書院造り庭園で、北側に見事な築山を配し、下に東西に細長い池を設けています。江戸前期のものです。ところどころに室町時代の作風を生かした美しい庭園です。



国名勝

かんのいん ていえん
観音院庭園

【江戸時代の名残りを残す】 鳥取市

【所在地】鳥取市上町162 【アクセス】鳥取駅から循環バスくる梨「樗谿公園やまびこ館前」下車5分

宗派は天台宗。本尊は、聖観世音菩薩。鳥取藩主の祈願所で、元は栗谷にあり観音寺と号しましたが、慶安3年(1650)の樗谿神社造営にあたり、観音院と改号しました。庭園は、池泉観賞式で、池の正面には蓬萊庭園横式の亀島を大きく造り出島を鶴島に見立てています。背後にある源太夫山を借景に、月を眺める庭景は、一幅の絵画を見るようです。



四季華に移ろう景色も見事



おすすめ 城と庭園を巡る
コース

鳥取城跡

ニノ丸から徒歩5分

鳥取県立博物館

徒歩15分

興禅寺庭園

徒歩15分

鳥取市歴史博物館

徒歩5分

観音院庭園

市保護文化財

とっとりじょう かまち なご
鳥取城下町の名残り

【鳥取藩32万石の藩部】 鳥取市

【所在地】鳥取市東町・西町ほか 【アクセス】鳥取駅から徒歩5分(若桜橋)

湿地帯に面して小規模な集落が形成されていた久松山麓に、現在の中心市街地の原型となる城下町の造営がはじまったのは、池田光政時代の元和5年(1619)のことです。国替えの後、鳥取池田家によって完成され、外郭として開削された袋川や若桜街道・智頭街道・鹿野街道などは、江戸時代の都市構造をそのまま伝えており、特に山麓の寺院群や武家町・町人町などの町割は比較的よく残されています。昭和18年の鳥取大震災、昭和27年の鳥取市大火災等の災害を経ながらも、箕浦家の武家門(市保護文化財)等、少数ながら当時の建造物も残されています。



移築された箕浦家武家門

あら きまた えもん はか
荒木又右衛門の墓

【伊賀上野の仇討ち】 鳥取市

【所在地】鳥取市新島治町176 【アクセス】鳥取駅から車で10分鳥取駅から循環バスくる梨「寿町」から徒歩5分

荒木又右衛門は、江戸の三大仇討ちとして名高い伊賀上野の鍵屋の辻の仇討ちにおいて、渡辺数馬を助太刀し有名となった剣客です。その後初代藩主池田光仲に招かれ、荒木家は鳥取藩士の列に加わりました。又右衛門は、数々の時代劇・時代小説の主人公として描かれ、その墓のある玄忠寺には、現在も訪れる人が絶えません。



鳥取入り後、すぐには急死したとされる

高砂屋
(城下町とっとり交流館)

鳥取藩御用商人の高砂屋池内家が、明治の中頃に建てた商家を整備したもので、国の登録有形文化財に登録されています。喫茶コーナーもある館内では鳥取の民芸品の販売や企画展示などを行っています。

【所在地】鳥取市元大町1番地 【電話】0857-28-9024 【休館日】毎週月曜日(月曜祝日の場合、その翌日)、年末年始 【入館料】無料(多目的交流室利用は有料)



高砂屋

鳥取市歴史博物館
(やまびこ館)

鳥取市内の歴史情報を学ぶことができる参加体験型博物館で、常設展示は「鳥取の風土」「城下町鳥取」などです。

【所在地】鳥取市上町88 【電話】0857-23-2140 【休館日】月曜(祝日の場合翌日)、年末年始 【入館料】小・中学生・高校生 無料 一般 300円(団体割引あり)

鳥取県立博物館

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことができる総合博物館で、旧石器時代から現代までの鳥取県を代表する史料を展示しています。

【所在地】鳥取市東町2丁目124番地 【電話】0857-26-8042 【休館日】月曜(祝日の場合翌日)、年末年始 【入館料】180円(団体割引あり)



町指定史跡

とっとりはんしゅいけだ け ぼしよ
鳥取藩主池田家墓所 [鳥取藩池田家一門が静かに眠る] **鳥取市**

【所在地】鳥取市国府町奥谷 【アクセス】鳥取駅からバス中河原線「宮ノ下口」から徒歩10分



整然と立ち並ぶ石灯籠



鳥取藩主池田家墓所は、元禄6年(1693)、初代藩主池田光仲の廟地と定められたことから始まります。墓所内には初代から十一代までの歴代藩主のほか、藩主夫人、御分知家「東館」・「西館」当主など合わせて78基の墓碑が建ち並んでいます。

墓所内は墓碑の規模・形態のほか、260基以上立ち並ぶ石灯籠にまで厳格な身分秩序が反映されています。なかでも、歴代藩主墓と、次期藩主になる立場でありながら藩主となることなく亡くなった2人の墓に採用されている「亀趺円頭(きふえんとう)」という形式の墓碑は、亀形の神獣を象った台座である「亀趺」上に円筒扁平な墓標を立てた壮大な造りのもので、墓所内の他の墓と一線を画しています。

現在、この鳥取藩主池田家墓所は、300年以上の時を経てきた歴史の重みを感じさせてくれるとともに、四季折々に変化する景色のすばらしさによって人々に親しまれる場所となっています。



亀趺(きふえんとう)

町指定史跡

うどのけ ぼち
鶴殿家墓地 [浦富領主の墓所] **岩美町**

【所在地】岩美郡岩美町浦富2756 【アクセス】岩美駅からバス「浦富海岸」から徒歩10分 岩美駅から車で10分、徒歩5分

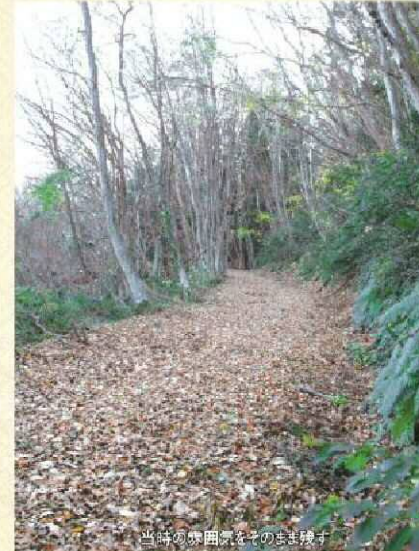
鶴殿家墓地は桐山城の山麓にあり、12基の墓碑が配されています。鶴殿家は寛永9年(1632)池田光仲が岡山より国替えの際、鶴殿長次が子・長之とともに光仲に随従して鳥取へ来ました。鶴殿家の所領の多くが岩井郡(現在の岩美町、鳥取市福部町)に与えられ、浦富を直領として、但馬国境・海浜の警備にあたりました。以来明治を迎えるまでの238年間、代々浦富を治めました。



町指定史跡

さんいん どう が もうとうげ こそ
山陰道蒲生峠越 [京へと続く歴史の道] **岩美町**

【所在地】岩美郡岩美町蒲生地内 【アクセス】岩美駅からバス「蕪島」から徒歩20分 岩美駅から車で20分



当時の桑田園をその奥に望む

「山陰道」とは古代行政区画である五畿七道の一つで、因幡・伯耆国を含む日本海側の8ヶ国のことですが、これら諸国の国府と都をつなぐ官道のことでもあります。近世の「山陰道」は鳥取と京都を結ぶ主要街道として鳥取藩が整備し、「但馬往来」とも呼ばれ、多くの人々に利用されました。

戦国末期には因幡に侵攻する羽柴秀吉の軍勢、幕末の慶応4年(1868)春には山陰道鎮撫使の西園寺公望が蒲生峠を越えて鳥取へ向かったと伝えられています。

現在でも峠付近には「延命地藏大菩薩」の台座が残り、当時の往来の様子を今に伝えています。



赤線：指定範囲

近代遺産

きゅうみたにすいげんち すいどうしきつ
旧美敷水源地水道施設 [山陰最初の近代水道施設] **鳥取市**

旧美敷水源地は、大正4年(1915)に供用開始された山陰地方初の近代水道施設です。水道施設としては、昭和53年(1978)でその役割を終え、現在は砂防ダムとして利用されています。

今もこの濾過池、摩堤、接合井、量水器などの諸施設は、近代上水道のシステムを全て残す貴重な近代遺産として、平成19年(2007)に国の重要文化財(建造物)に指定されました。



昭和初期以前の濾過池



おすすめ

近世の静寂と自然を楽しむコース

樗谿神社(鳥取東照宮)

徒歩3分

鳥取市歴史博物館

車で20分

鳥取藩主池田家墓所

車で50分

鶴殿家墓地



撮影：太田忍さん

鳥取藩主池田家墓所では、毎年彼岸過ぎの時期に、全ての灯籠に火をともし灯籠会を開催しています。

市指定史跡

しかのじょうあと しかの まちな
鹿野城跡と鹿野の町並み [市民主体のまちなみ整備が進む] 鳥取市

【所在地】鳥取市鹿野町殿町ほか 【アクセス】JR浜村駅からバス(鹿野方面行)「加治町」から徒歩5分



城の名所でもある鹿野城跡

鹿野城は、志加奴氏の築城した中世城郭をもとに、亀井茲矩が近世初頭までに石垣の城に改修し、あわせて城下町を整備しました。

鹿野城下には、山中鹿介の墓のある幸盛寺、市指定名勝となっている近世庭園の残る譲伝寺などの寺院や、城下町の構造が残されており、近年は市民を主体とするまちなみ整備が進んでいます。



市指定史跡

かめい これのりこうぼ しょ
亀井茲矩公墓所 [鹿野藩初代藩主の墓所] 鳥取市

【所在地】鳥取市気高町山宮650ほか 【アクセス】JR浜村駅から車で約10分

亀井茲矩公墓所は鹿野城跡の北西約2.5kmの武蔵山と呼ばれる丘陵上に所在しています。この地は茲矩が尼子の残党として逃れた後に再起を果たした場所で、この地に墓所を造るよう遺言を残したとされています。墓碑の4面には梵字が刻まれ、東面には茲矩の戒名「中山道月大居士」と没年(1612年)が記されています。



市指定史跡

かげいしじょうあと もちがせ まちな
景石城跡と用瀬の町並み [城下町と宿駅の姿をとどめる] 鳥取市

【所在地】鳥取市用瀬町用瀬ほか 【アクセス】JR用瀬駅から徒歩90分

旧智頭往来に沿う用瀬の町は、はじめ景石城の城下町として造営されました。国人・用瀬氏によって南北朝期に築城され、羽柴秀吉の配下の磯部氏によって石垣が築かれた景石城跡は、現在市指定史跡となっています。江戸時代には宿駅とされ、参勤交代の際に藩主が休息した「茶屋本陣跡」のほか、宿駅の入り口に置かれていた番小屋跡などが残されています。



国指定史跡

わか さ おにがじょうあと
若桜鬼ヶ城跡 [廃城時に壊された石垣] 若桜町

【所在地】若桜町若桜1531ほか 【アクセス】若桜鉄道 若桜駅から徒歩40分 若桜駅から車で10分



廃城となり壊された石垣が今もそのままに残る



若桜鬼ヶ城跡は若桜宿の南側にそびえる鶴尾山(標高452m)に築られました。築城期は不明ですが、中世期に在地領主の矢部氏によって築かれたと考えられます。鶴尾山は但馬・播磨の各街道の結節点に位置し、因幡地方の玄関口であったため、戦国期は尼子・毛利・織田などの各有力大名がこの地を巡って激しい攻防を繰り返しました。羽柴秀吉による因幡平定後は木下氏・山崎氏と城主が代わり、池田氏が鳥取城に入ると、元和元年(1615)の一國一城令によって廃城となりました。

山頂には総石垣の曲輪が築かれ、廃城の際に意図的に被却された状態で残ります。また、山内には石垣遺構に先行する曲輪が残され、中世城郭としての若桜鬼ヶ城を知るうえで重要です。

近代化遺産

わかさつどう
若桜鉄道
[登録文化財となった現役鉄道]

若桜鉄道はJR郡家駅から若桜駅まで結ぶ19.2kmの第3セクターの鉄道で、旧国鉄若桜線として昭和5年に全通しました。沿線にある23施設が国登録有形文化財となっています。「因幡船岡・牟・安部・八東・丹比・若桜」の各駅舎が登録され、若桜駅には給水塔・転車台があります。また、近年若桜駅構内にSLが置かれ、当時の終着駅が再現されています。橋梁は「第一～第三八東川・岩瀬川・細見川・若桜川」の前6本が登録され、各橋梁で構脚やプレートガーダーに特徴を持っています。また、雪や落石から線路を守る「雪覆・落石覆」も登録文化財となっています。



若桜駅に残る転車台

若桜町歴史民俗資料館

明治31年(1898)に開設された旧若桜銀行本舎社屋を移築・復元した建物で、若桜鬼ヶ城跡出土品などの歴史資料や水ノ山の自然資料、若桜の生活用具などを展示しています。資料館の隣には、この地方の庄屋を勤めた三百田氏の住宅(県指定保護文化財)が移築されています。

【所在地】若桜町屋堂37 【電話】0858-82-0583
【休館日】年末年始、月曜日(祝日の場合は、その翌日)
【開館時間】9:00～17:00



国指定史跡

ちすおうらいしとさかとうげごえ
智頭往来志戸坂峠越 [鳥取藩参勤交代の道]

智頭町

【所在地】智頭町大字中原・福原・駒澤地内 【アクセス】智頭急行山郷駅下車すぐ(中原付近) 智頭南ICから車で10分、徒歩20分(志戸坂峠)



今も残る石垣と水路



鳥取城下を出発して、用瀬を経て智頭町に入り、志戸坂峠を越えて岡山県西粟倉村を經由して兵庫県姫路市に至る道が智頭往来(因幡街道)と呼ばれています。智頭往来の歴史は古く、平安時代には既に官道として道が通っており、この往来は畿内と因幡地方を結ぶ特に重要な道として、江戸時代には鳥取池田藩の参勤交代の道、上方への主要道として重要な役割を担ってきました。智頭往来は、時の流れとともに姿を消し廃道となった所もありますが、智頭町内には約21kmにわたる古道が現存しており、そのうち智頭町山郷地区に残る志戸坂峠を中心とした約2.5kmが国史跡に指定されています。現在残る峠道は、明治19年に改修工事が行われたもので、精緻な石垣と水路が周囲の自然に溶け込み、歴史を感じながら自然を満喫することができます。

近代化遺産

いしにけいじゅうたく 国重要文化財 智頭町
石谷家住宅 [豪壮な近代和風建築]

現在ある石谷家の邸宅は、大正8年から約10年かけて建築された近代和風建築で、一般公開されています。また、庭は県指定名園になっています。



【開放時間】10:00~17:00
【休館日】水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日)
【入館料】大人500円、高校生400円、小・中学生300円
幼児・高齢者(80歳以上) 無料
(生年月日を証明するものが必要です)
※団体割引(15人以上)あり

県選定伝統的建造物群保存地区

いたいばらしゅうらく 智頭町
板井原集落 [明治から昭和の山村風景を今に伝える]

板井原集落には全部で110棟を超える建物が残り、これらの建物のほとんどが明治から大正にかけて建築されたものです。大工など職人の手になる本建築と自分で建てた素人造りの小屋で、なかには独立小屋もあって、昔前の日本の農山村風景を彷彿とさせてくれます。



町指定史跡

いぬいしほち
乾氏墓地 [船岡を治めた着座家]

八頭町

【所在地】八頭郡八頭町船岡1602 【アクセス】若桜鉄道[因幡船岡駅]から徒歩20分

鳥取藩最高の家格である着座家に列する乾家は、代々家老職をつとめ、幼少であった初代藩主光仲に代わって藩政を取り仕切るなど、藩にとって重要な役割を担ってきました。乾家は、下船岡村(現在の八頭町)で陣屋を持ち、領主として自分手政治を行うことが許されていました。菩提寺は西来寺で、現在は廃寺となっていますが、乾家代々の墓は、現在も寺跡のそばに静かにたたずみ、船岡の地を見守っています。



いんきゅうざんやきのほりがま
因久山焼登窯 [現代も続く鳥取藩御用窯]

八頭町

【所在地】八頭郡八頭町久能寺 【アクセス】若桜鉄道[八頭高校前駅]より徒歩10分



現在も営まれる登窯

歴代鳥取藩主が愛用したと伝わる因久山焼は、鳥取藩の御用窯として明和年間(1764~1772)に創業されたと伝わる白緒ある窯元です。

江戸後期に4軒あった窯元のうち現在1軒が残っており、江戸期の位置・形状そのまま登窯を営んでいます。



※見学希望の方は事前に御連絡下さい。因久山焼登窯TEL(0858)72-0278



若桜鉄道で巡るコース

- 因久山焼登窯 ↓ 八頭高校前駅から徒歩10分、若桜鉄道で3分
- 乾氏墓地 ↓ 因幡船岡駅から徒歩20分、若桜鉄道で25分
- 若桜鬼ヶ城跡 ↓ (鶴尾山麓から) 徒歩約20分
- 若桜町歴史民俗資料館

参勤交代の道を歩く健脚コース

- 石谷家住宅 ↓ 徒歩120分 (智頭町の中心にあります。)
- 智頭往来志戸坂峠越 ↓ 徒歩30分 (中原付近(指定地の入口))
- 情報発信施設(福原パーキングエリア隣) ↓ 徒歩60分
- 志戸坂峠(岡山県境)

近代・近世用語解説

陣屋 (じんや)

3万石以下の城を持たない大名の政庁・屋敷。旗本、代官などの支配地における役宅・屋敷。大藩の家老の知行所(領地)に置かれた政庁のある屋敷。



倉吉陣屋絵図

城下町 (じょうかまち)

城を中心として成立した都市。防衛都市として侍町・足軽町・町人町・寺町などが計画的に配置された。江戸時代は各地の政治・経済の中心地として発展した。



鳥取城修復験絵図(延宝8年)

一国一城令 (いっこくいちじょうれい)

元和元年(1615)に幕府が制定した法令。一国に藩主が政庁とする城を残して他は廢城にするというもの。



一国一城令により壊された石垣(若桜鬼ヶ城跡)

一里塚 (いちりづか)

街道の両側に1里(約4km)ごとに設けられた塚。江戸時代に江戸日本橋を起点として本格的に整備された。



昔の伊志見一里塚

池泉鑑賞式庭園 (ちせんかんしょうしきていえん)

池庭を座敷などから鑑賞する庭。庭に園路を巡らせ、散策しながら鑑賞する庭を池庭回遊式庭園という。



観音院庭園

大名家墓所 (だいみょうけほしよ)

各藩の藩主やその家族が葬られた墓地のこと。国許に造営される。構造や墓の形態は藩ごとに個性がある。大名だけでなく、家臣の墓所もその領内などに造営されていた。



松江藩主松平家初代直正墓

鳥取藩主池田家初代光仲墓

主要参考文献

鳥取県

- ◆鳥取県教育委員会 1989年「鳥取県歴史の道調査報告書第一集 智頭往来」
- ◆鳥取県教育委員会 1991年「鳥取県歴史の道調査報告書第十集 大山道」
- ◆浅川滋男編 1996年「橋津の藩倉 今にのこる鳥取池田藩の藩御蔵」
- ◆内藤正中ほか 1997年「鳥取県の歴史」 山川出版社
- ◆飯田廣幸 1999年 倉吉の町並み「文化財だより第38号」
- ◆鳥取県立博物館編 2004年「特別展 鳥取藩32万石 図録」
- ◆関金町教育委員会 2005年「関金町の文化財」
- ◆米子市教育委員会 2006年「新米子の文化財」

鳥根県

- ◆内藤正中編 1997年「図説 鳥根の歴史」 河出書房新社
- ◆山陰中央新報社 1997年「鳥根県歴史人物事典」
鳥根県歴史人物事典刊行委員会
- ◆藤岡大拙監修 2001年「鳥根県歴史大年表」
- ◆鳥根県教育委員会 2002年「鳥根県の近代化遺産
—鳥根県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書—」
- ◆松尾 寿ほか 2005年「鳥根県の歴史」 山川出版社
- ◆監修 池橋達雄 2006年「定本 鳥根県の歴史街道」
- ◆鳥根県の歴史散歩編集委員会 2008年「新全国歴史散歩シリーズ32 鳥根県の歴史散歩」

協力機関

鳥取県

観音院、大山寺、大神山神社、三仏寺、了春寺、心光寺、体文寺、文忠寺、鳥取市文化財団、史跡鳥取藩主池田家墓所保存会、鳥取市教育委員会、米子市教育委員会、倉吉市教育委員会、日野町、日野町教育委員会、南部町教育委員会、伯耆町教育委員会、境港市教育委員会、大山町教育委員会、湯梨浜町教育委員会、三朝町教育委員会、琴浦町教育委員会、北栄町教育委員会、岩美町教育委員会、八頭町教育委員会、若桜町教育委員会、智頭町教育委員会、鳥取県立博物館

鳥根県

松江市、浜田市教育委員会、出雲市、益田市教育委員会、大田市教育委員会、安来市教育委員会、江津市教育委員会、雲南市教育委員会、粟出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、津和野町教育委員会、吉賀町教育委員会、海士町教育委員会、西ノ島町教育委員会、知夫村教育委員会、隠岐の島町教育委員会

初版平成22年(2010)3月刊行 改訂版平成29年(2017)3月刊行